

2020年4月29日

「復興知」重点枠 進め方メモ

新田

- ・4月29日の大学間打合せの結果を含め、以下のように進めることを確認した。
打合せ出席者（敬称略）：溝口（東京大学）、新田（福島大学）、石井（福島大学）、内田（福島高専）、松島（イノベ機構） 6名
- ・今後は週に1回ほどの頻度で、復興農学会事務局会議をZoomで開催する。毎回1時間程度、次回は5月8日（金）17時から、次々回は5月11日（月）9時とする。次回以降の開催について、新田より連携6大学関係教職員に連絡する。
Zoom ミーティングに参加する URL:（事務局に問い合わせる）
- ・復興農学会の全体会議を月に1回ほどの頻度で開催する。初回は5月を予定。生源寺 先生に日程調整をする必要あり。新田が担当。
- ・復興農学会を進めるためのロードマップを策定する（松島提案）。
- ・連携6大学の「復興知」事業の昨年度の成果をホームページにアップする。新田がデータを持っており、第1回の会議で提示して確認する。
- ・復興農学会の「会則」を整備する。新田が担当。

以上

復興学支援事業の研究分野（農学関連）

大学名	自治体	【1】農業再生			【2】土壌改良		【3】農業収益改善		【4】稲作関連研究			【5】農作業改善	
		風評被害対応	営農者拡大	鳥獣対策	・土壌肥沃化 ・有機栽培	・Cs対応 ・塩害対応	・高付加価値作物の取り込み ・6次化	物流改革	良食米の研究	収量増大品種の研究	酒米の研究	IoT/AIの活用	ロボット/ドローン活用
①東京農工大学	富岡		●		●		●		●	●	●	●	●
④東京大学	飯館				●	●					●	●	
⑦福島高専	広野					●	●						
⑧福島高専	檜葉、大熊、いわき												●
⑨郡山女子大学	葛尾		●				●						
⑩近畿大学	川俣	●				●	●						
⑭東北大学	葛尾			●								●	●
⑮東京農業大学	浪江	●	●	●			●						
⑯東京農業大学	相馬		●	●		●		●					
㉕福島大学	川内他9					●			●				

今後の課題 ★各大学の知見共有化による更なるレベルアップ

★各自治体の連携による知見の活用

農業関連研究分野

【1】農業再生			
風評	営農者 拡大	鳥獣対 策	

【2】土壌改良		
土壌肥 沃化・ 有機栽 培	・Cs対 応 ・塩害 対応	

【3】農業収益改善		
高付加 価値作 物の取 り込み	物流改 革	



【4】稲作関連研究			
良食米 の研究	収量増 大品種 の研究	酒米の 研究	

【5】農作業改善		
IoT/AI の活用	トラクタ/ ドローン	

・エゴ マ ・花卉

土壌肥沃度の改善 ⇄ 作物との関連

大学名	自治体	テーマ
①東京農工大学	富岡	
④東京大学	飯館	
⑦福島高専	広野	
⑧福島高専	楢葉、天熊、 いわき	
⑨郡山女子大学	葛尾	
⑩近畿大学	川俣	
⑭東北大学	葛尾	
⑮東京農業大学	浪江	
⑯東京農業大学	相馬	
㉕福島大学	川内他9	

「復興農学会」事務局会議（仮称）（試行） 議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年5月8日（金）17時00分～18時05分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 大川 泰一郎（東京農工大学）、溝口 勝（東京大学）、内田 修司（福島高専）、菅原 優（東京農業大学）、登尾 浩助（明治大学）、青木 寿博（福島高専）、川妻 伸二（同）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、丹野 史典（同）、松島 武司（福島イノベ機構）

欠席等連絡者 伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）
（敬称略）

議事

1. 会則について【資料】（新田）

新田より資料にもとづいて原案の説明があった。審議の結果、第1条に、本会が東日本大震災・福島第一原子力発電所事故で被災した福島県浜通り地域の復旧・復興事業に起因することを加筆すること、第2条の本会の目的で浜通り地域の復旧・復興に限定しないこととすること、また成果を国内・外への発信や復旧・復興に寄与することを明らかにすること等を新田が修正し、次回の本会議で再度提案・審議することとなった。

2. 各大学等の成果のWeb公開について【資料】（新田）

新田より資料にもとづいて各大学等の2019年度の成果のWeb公開について説明があった。審議の結果、同成果をWeb公開することが確認された。また、各大学等の2018年度の成果や、「復興知」事業以外の関連の成果もWeb公開することが了承された。については、各大学等の担当者は資料を新田に送付することとなった。また、Webにはアンケートを実施するページを設けることなども了承された。

3. 「復興農学会」の進め方について（新田）

事務局会議（仮称）、全体会議等のあり方や、「復興農学会」の進め方について意見交換した。以下のような意見が出され、次回以降、再度検討することとなった。

(1) 事務局会議について

- ・週に1回ほどの頻度で、毎回1時間程度、Zoomで開催する。
- ・開催時間は、大学等における業務や現地での農作業等の関係から、17時以降ぐらいがよい。

(2) 全体会議について

- ・月に1回ほどの開催頻度はハードだが、やり方を工夫して開催してはどうか。
- ・初回は5月下旬でどうか。
- ・成果発表や情報提供、交流などのほか、各大学等が現地で実施する「イベント」を含んで実施するのもよい。
- ・「復興知」事業は「イベント」や成果が大学等と地域との間で「閉じて」しまっている印象がある。そうしないためにも、地域、自治体、住民が参加する形態がのぞまれる。

4. その他

(1) 「ロードマップ」・「シーズ集」について

復興農学会関係の「ロードマップ」については、策定することが確認された。

「シーズ集」については、作成する研究者等や事務局の対応が面倒にならないようにした方がよい、文書形式だけでなくパワーポイントのスライド形式でもよい、キーワードを充実させた方がよい、などの意見があった。

いずれも今後、福島大学より提案して審議し、進めることとなった。

次回 2020年5月11日（月）9時00分～10時00分 ZoomによるWeb会議

以上

「復興農学会」事務局会議（仮称）（試行） 議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年5月11日（月）9時00分～10時00分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、内田 修司（福島高専）、伊藤 央奈（郡山女子大学）、菅原 優（東京農業大学）、青木 英二（福島高専）、新田 洋司（福島大学）、丹野 史典（同）、松島 武司（福島イノベ機構）

欠席等連絡者 大川 泰一郎（東京農工大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、登尾 浩助（明治大学）、川妻 伸二（福島高専）、石井 秀樹（福島大学）
（敬称略）

議事（案）

1. 会則について【資料】（新田）

新田より資料にもとづいて会則（案）の説明があり、審議した。審議の結果、以下の修正を加えることとなった。▼第1条で「公害・」を削除する、▼第1条で「農学・農業（農林水産業等）分野」とする、▼第4条（1）で「賛同する市民、教育研究関係者等」とする。

2. 「シーズ集」について【資料】（新田）

新田より「シーズ集」の形態、編集方法、公開方法等について審議提案があった。審議の結果、以下の諸点が了承された。

- ・福島イノベ機構が持っている「分野表」を活用し、第1面に貼り付けるなどして、その下に各大学・研究者等のページをぶら下げる。
- ・各大学・研究者等のページは新規に作成するのではなく、各大学等が公表しているシーズ集・研究者情報等のWebにリンクを張る形態とする。「リサーチマップ」も活用しリンクを張る。

3. 「復興農学会」の進め方について（新田）

(1) 事務局会議について

新田より会議の開催方法等について説明と提案があった。審議の結果、当初案のとおり、▼週に1回ほどの頻度で、毎回1時間程度、Zoomで開催すること、▼毎週月曜日17時からの開催を基本とすること、が了承された。

(2) 全体会議について

新田より全体会議の開催方法等について説明と提案があった。審議の結果、▼月に1回ほどの開催頻度はハードだが、やり方を工夫して原則開催する、▼各大学等に各回の担当を委ね、各大学の「イベント」等とジョイントして開催する方法でもよい、▼第1回は東京農工大学に担当を依頼する、等が了承された。なお、第1回の開催については、新田から大川 教授に相談することとなった。

また、第1回は復興農学会の正式発足のため、会則の決定、シーズ集の決定等も予定しているため、開催内容、日程等について福島大学が調整することとなった。

(3) 「ロードマップ」について

新田より復興農学会の「ロードマップ」について説明と審議提案があった。審議の結果、▼今年度の1年間のような短期間のロードマップの作成が必要であり、福島大学が原案を作成すること、▼近未来のロードマップの作成も進めること、▼5～10年間のロードマップも必要と考えられ、今後検討を進めること、等が了承された。

(4)「会報」について

今後、「会報」の発行が必要との意見がだされた。審議の結果、▼今年度を含む当面は、各大学の事業成果や「イベント」実績等を綴ることも考えられること、▼将来は査読付き論文を掲載することを目指して、その体制を構築していきたいこと、などが確認された。

次回 2020年5月18日(月)17時00分～18時00分 ZoomによるWeb会議

以上

復興農学会 会則（案）

2020年5月★日制定

（名称）

第1条 本会は、復興農学会と称する。国内・外における自然災害・原子力災害等からの復旧・復興から得た農学・農業（農林水産業等）分野における知見・技術を、広く国内・外に発信していく学術的な非営利組織である。

（目的）

第2条 本会は、災害等からの復旧・復興に農学・農業分野で次の諸点で寄与することを目的とする。

- (1) 市民、教育・研究機関、企業、団体、自治体等の相互間の学術・技術・教育等の交流を進めること。
- (2) 市民、教育・研究機関、企業、団体、自治体等が復旧・復興にかかる事業で培った学術・技術・教育等の成果を「復興農学」として体系化し、深化と継続をはかること。
- (3) 市民、教育・研究機関、企業、団体、自治体等が学術・技術・教育等の成果を交え、広く国内・外で復旧・復興支援活動を進めること。

（事業）

第3条 本会は、上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 教育・研究活動の成果の共有
- (2) 共同事業の企画・推進
- (3) 研究会、シンポジウム等の開催
- (4) 教育・研究資料の収集・配布
- (5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

（会員）

第4条 本会の会員は、個人会員および団体会員で構成する。

- (1) 個人会員は、本会の目的に賛同する市民、教育・研究関係者等の個人とする。
- (2) 団体会員は、本会の目的に賛同する教育・研究機関、企業、団体、自治体等とする。

（経費および会費）

第5条 本会は事業を遂行するため、会員が下記の会費を前納するとともに、別途寄附金を受ける。

- (1) 個人会員 年額 2,000 円
- (2) 団体会員 年額 4,000 円

（役員）

第6条 本会に次の役員を置く。

幹事 若干名

- 2 幹事のうちから会長1名、副会長若干名を互選する。
- 3 会長は本会を代表し、その業務を処理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。副会長のうち1名は幹事長として、事務局業務を行う。
- 5 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(幹事会)

第7条 事業の円滑な運営を図るため、幹事会を設ける。

- 2 幹事会は、幹事をもって構成する。
- 3 幹事会は、必要に応じて会長が招集する。
- 4 幹事会は、会の重要事項について審議・決定し、執行する。

(事業および会計年度)

第8条 本会の事業および会計年度は、4月1日に始まり、3月31日に終わる。

(事務局)

第9条 本会の事務局は、会長の所属機関（または福島大学食農学類）に置く。なお、本会の総務の一部は福島大学食農学類が担当する。

「復興農学会」事務局会議 議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年5月18日（月）17時00分～18時00分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 大川 泰一郎（東京農工大学）、溝口 勝（東京大学）、内田 修司（福島高専）、青木 英二（同）、川妻 伸二（同）、鈴木 茂和（同）、伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、菅原 優（同）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、丹野 史典（同）、松島 武司（福島イノベ機構）

欠席等連絡者 登尾 浩助（明治大学）
（敬称略）

議事録

1. 会則について【資料】（新田・松島）

新田、松島 コーディネーターより資料にもとづいて、「復興農学会」の会則に会の背景や役割、イノベ事業の思いなどを盛り込むか説明と審議依頼があった。審議の結果、これらは会則には直接は盛り込まず、別途「設立趣旨」として明記することとなった。また、SDGsの目標や考え方と復興農学会との関係についても、部門により検討する必要があるとの意見があった。については、これらを踏まえて福島大学が原案を作成し提案することとなった。

2. 「復興農学会」の進め方について（新田）

(1) 事務局会議「全体会議」について

大川 教授（東京農工大学）のコーディネートにより、富岡町の現地を主会場として、5月23日（土）18時よりWebで開催することになった。また、溝口 教授がウェビナー（Webinar）の設定をすることとなった。

なお、この「全体会議」には、本事務局会議メンバーだけではなく、イノベ事業に関わる教職員、学生、市民等に参加を呼びかけることとなった。

(2) 福島大学主催「全体会議」について

新田より、復興農学会の正式立ち上げ、会則の決定、シーズ集の決定等のための「全体会議」を計画中であり、5月末～6月に開催予定であるとの説明があった。については、福島大学が日程等を調整して、再度提案することとなった。

(3) 事務局会議について

本事務局会議を週に1回、毎回1時間程度、Zoomで開催すること、当面は毎週月曜日17時からの開催を基本とすることが確認された。

3. その他

(1) 復興農学準備会 Web について（溝口）

溝口 教授より、復興農学準備会 Web に、「成果報告」、「シーズ」、「事務局便り」のページを開設したこと、議事録等を随時アップしていること等が報告された。

以上

次回

全体会議 2020年5月23日（土）18時00分～19時00分（予定）Web 利用

事務局会議 2020年5月25日（月）17時00分～18時00分 ZoomによるWeb会議

「復興農学会」事務局会議 議事（案）

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年5月18日（月）17時00分～18時00分（予定）

方法 ZoomによるWeb会議

<https://zoom.us/j/96032974362?pwd=ekJZMINBcERHSUwwZy9meGZTeGRSdz09>

<<https://www.google.com/url?q=https://zoom.us/j/96032974362?pwd=%3DekJZMINBcERHSUwwZy9meGZTeGRSdz09&sa=D&ust=1588476143632000&usg=AOvVaw2HKbw0Y-3TEDoUwVwxOrT9>>

出席者 大川 泰一郎（東京農工大学）、溝口 勝（東京大学）、内田 修司（福島高専）、青木 英二（同）、川妻 伸二（同）、伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、菅原 優（同）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、丹野 史典（同）、登尾 浩助（明治大学）、松島 武司（福島イノベ機構）

欠席等連絡者

（敬称略）

議事（案）

1. 会則について【資料】（新田・松島）

- ・復興農学会の背景・役割を会則に強く盛り込むか、附則等として表現するか？

2. 「復興農学会」の進め方について（新田）

(1) 全体会議について

下記のようなかどうか？

5月末～6月 福島大学主催。「復興農学会」の立ち上げ、意見交換。

6月6日（土）東京農工大学（大川 先生）の「イベント」

(2) 事務局会議について

（確認）

▼週に1回ほどの頻度で、毎回1時間程度、Zoomで開催する、▼毎週月曜日17時からの開催を基本とする。

次回 2020年5月25日（月）17時00分～18時00分 ZoomによるWeb会議

以上

復興農学会 会則（案）

2020年5月★日制定

（名称）

第1条 本会は、復興農学会と称する。国内・外における自然災害・原子力災害等からの復旧・復興から得た農学・農業（農林水産業等）分野における知見・技術を、広く国内・外に発信していく学術的な非営利組織である。

（目的）

第2条 本会は、災害等からの復旧・復興に農学・農業分野で次の諸点で寄与することを目的とする。

- (1) 市民、教育・研究機関、企業、団体、自治体等の相互間の学術・技術・教育等の交流を進めること。
- (2) 市民、教育・研究機関、企業、団体、自治体等が復旧・復興にかかる事業で培った学術・技術・教育等の成果を「復興農学」として体系化し、深化と継続をはかること。
- (3) 市民、教育・研究機関、企業、団体、自治体等が学術・技術・教育等の成果を交え、広く国内・外で復旧・復興支援活動を進めること。

（事業）

第3条 本会は、上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 教育・研究活動の成果の共有
- (2) 共同事業の企画・推進
- (3) 研究会、シンポジウム等の開催
- (4) 教育・研究資料の収集・配布
- (5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

（会員）

第4条 本会の会員は、個人会員および団体会員で構成する。

- (1) 個人会員は、本会の目的に賛同する市民、教育・研究関係者等の個人とする。
- (2) 団体会員は、本会の目的に賛同する教育・研究機関、企業、団体、自治体等とする。

（経費および会費）

第5条 本会は事業を遂行するため、会員が下記の会費を前納するとともに、別途寄附金を受ける。

- (1) 個人会員 年額 2,000 円
- (2) 団体会員 年額 4,000 円

（役員）

第6条 本会に次の役員を置く。

幹事 若干名

- 2 幹事のうちから会長1名、副会長若干名を互選する。
- 3 会長は本会を代表し、その業務を処理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。副会長のうち1名は幹事長として、事務局業務を行う。
- 5 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(幹事会)

第7条 事業の円滑な運営を図るため、幹事会を設ける。

- 2 幹事会は、幹事をもって構成する。
- 3 幹事会は、必要に応じて会長が招集する。
- 4 幹事会は、会の重要事項について審議・決定し、執行する。

(事業および会計年度)

第8条 本会の事業および会計年度は、4月1日に始まり、3月31日に終わる。

(事務局)

第9条 本会の事務局は、会長の所属機関（または福島大学食農学類）に置く。なお、本会の総務の一部は福島大学食農学類が担当する。

復興農学会 会則内容に関して

2020.5.9⇒5.17.(Rev1) 松島記

復興農学会が果そうとしている役割が「目的」その他の項目に織り込まれていれば良いと思います。

【復興農学会結成の背景】

1. 東日本大震災により浜通り地域の復興として多くの農業関連大学（研究者）がこの地域に拠点を置き多岐に渡る農業活性化のための研究が成されている。
2. 各大学が現地の営農者と密接な関係を持つことにより、営農者が持つ「暗黙知」を引き出し研究者が学術的に解明し更に高度な方法に進展させている。
3. 現地における研究内容は放射能物質対応に関するテーマ以外は、日本の各地で抱える農業活性化に活用できる内容である。
4. 各大学が推進する研究課題を相互に共有化し相互に補完することにより高度な研究内容に発展できる可能性を秘めている。

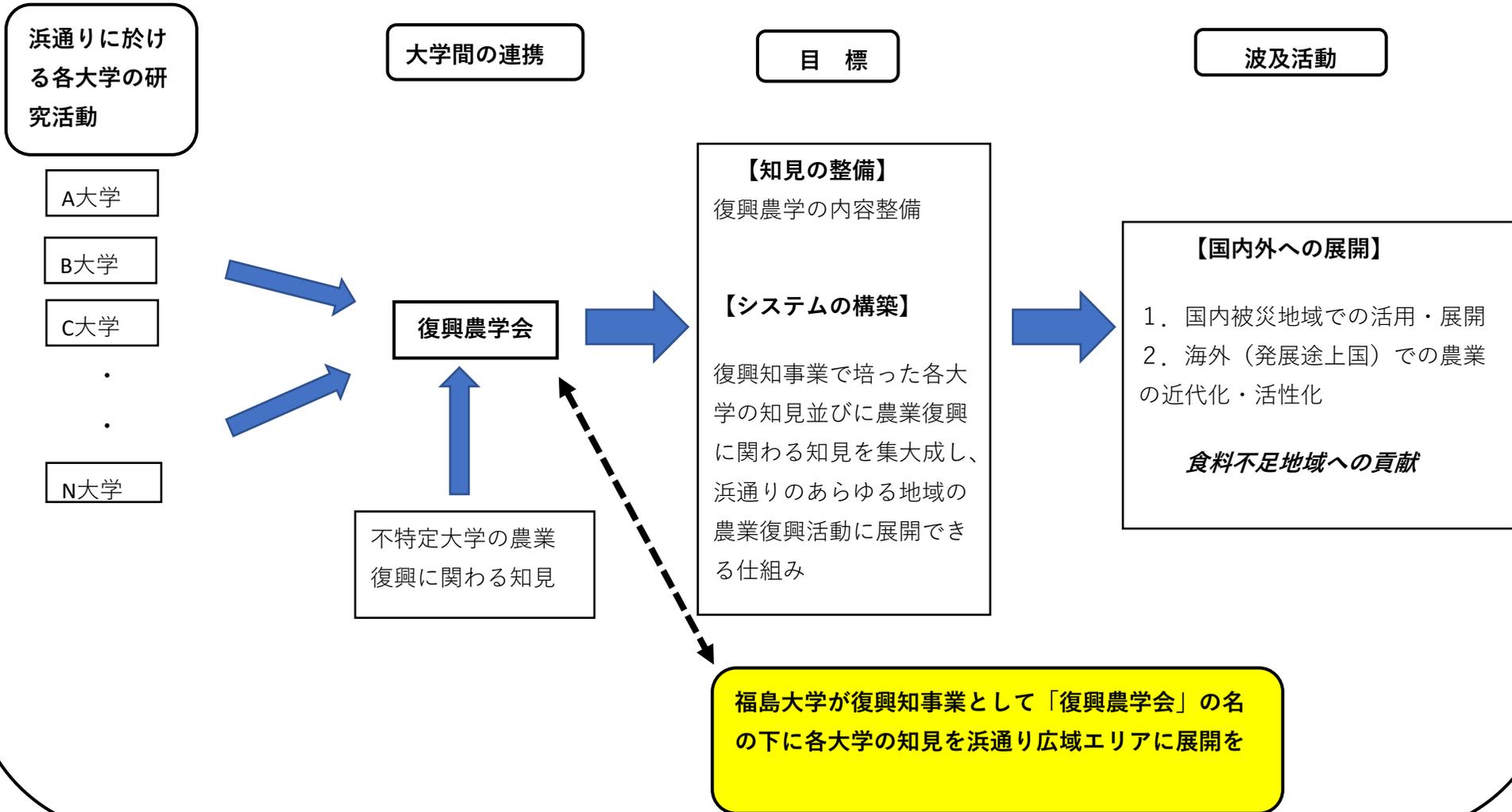
以上の背景と多くの知見を保有する他大学も参入し、これらを有機的に実現していく機関として「復興農学会」を設立する。

…追記…

「復興農学会」の立上げ趣旨としては現時点の会則内容で十分のように思われるが、農業関連に関する復興知事業の集大成として復興農学会が設立されるとの観点と、福島県の立場から見ると、浜通りエリアの農業復興・活性化のための機能が含まれていることが不可欠となる。これらの背景を勘案して復興農学会の会則に強く盛り込むか、付則として表現するか検討していく必要があると思われる。（今後復興知事業に関与していなかった大学、研究者、学生、民間人を巻込んでいくに弊害にならない方法を模索していく意味）

以上

復興知事業における農業系研究グループの連携と目的



復興学支援事業の研究分野（農学関連）

大学名	自治体	【1】農業再生			【2】土壌改良		【3】農業収益改善		【4】稲作関連研究			【5】農作業改善	
		風評被害対応	営農者拡大	鳥獣対策	・土壌肥沃化 ・有機栽培	・Cs対応 ・塩害対応	・高付加価値作物の取り込み ・6次化	物流改革	良食米の研究	収量増大品種の研究	酒米の研究	IoT/AIの活用	ロボット/ドローン活用
①東京農工大学	富岡		●		●		●		●	●	●	●	●
④東京大学	飯館				●	●					●	●	
⑦福島高専	広野					●	●						
⑧福島高専	檜葉、大熊、いわき												●
⑨郡山女子大学	葛尾		●				●						
⑩近畿大学	川俣	●				●	●						
⑭東北大学	葛尾			●								●	●
⑮東京農業大学	浪江	●	●	●			●						
⑯東京農業大学	相馬		●	●		●		●					
㉕福島大学	川内他9					●			●				

今後の課題 ★各大学の知見共有化による更なるレベルアップ

★各自治体の連携による知見の活用

「復興農学会」第1回研究例会（富岡町）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年5月23日（土）18時00分～20時00分

場所 渡邊 伸 氏宅（福島県富岡町大字本岡字王塚）・ZoomによるWeb

出席者 31名

【富岡町】大川 泰一郎（東京農工大学）、藤井 義晴（同）、桂 圭佑（同）、渡邊 伸（富岡町）、佐々木 邦浩（とみおかプラス（事務局長））、山根 麻衣子（同）、中村 哲也（東京農工大学（元 日産自動車））、石井 秀樹（福島大学）、横山 正（同）、

【web】溝口 勝（東京大学）、西村 拓（同）、徳重 誠（同）、杉野 弘明（同）、栗山（同）、山川 綾菜（同（修士2年））、内田 修司（福島高専）、青木 英二（同）、川妻 伸二（同）伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、菅原 優（同）、中島 亨（同）森田 七海（弘前大学）、藤原 信好（農研機構農村工学研究部門）、新田 洋司（福島大学）、熊谷 武久（同）、原田 茂樹（同）、尾形 慎（同）、二瓶 直登（同）、林 薫平（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 富岡町での「復興知」事業の紹介・討論

以下の報告があり意見交換した。

- ・営農再開状況の報告（渡邊）
- ・東京農工大学の研究活動報告（大川）
- ・日本酒開発プロジェクト報告（佐々木・山根）

2. 意見交換（全員）

以上

次回

事務局会議 2020年5月25日（月）17時00分～18時00分 ZoomによるWeb会議

「復興農学会」事務局会議 議事録

文責 新田 洋司 (福島大学)

日時 2020年5月25日(月)17時00分～18時00分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 大川 泰一郎(東京農工大学)、溝口 勝(東京大学)、内田 修司(福島高専)、青木 英二(同)、伊藤 央奈(郡山女子大学)、黒瀧 秀久(東京農業大学)、菅原 優(同)、中野 和典(日本大学)、新田 洋司(福島大学)、石井 秀樹(同)、横山 正(同)、丹野 史典(同)、松島 武司(福島イノベ機構)

欠席等連絡者 川妻 伸二(福島高専)、鈴木 茂和(同)、登尾 浩助(明治大学)、岩城 一郎(日本大学)
(敬称略)

議事録

1. 「復興農学会」事務局会議「全体会議」(5月23日開催)について(新田・松島)

新田より、5月23日に大川 教授(東京農工大学)主宰で開催された「全体会議」(主会場:富岡町)について、内容、出席者数等について報告があり、お礼の発言があった。

また、松島 コーディネーターより資料にもとづいて、同会議で得られた情報や今後の課題等について以下のとおり紹介があった。

(a) 得られた情報等

- ・ 農業機械・設備等は自治体をまたいだ利活用が必要で求められるのではないかと。
- ・ 富岡町での復興活動は他の地域にも活用できる点を各大学が再認識した。
- ・ イノシシのほかにもネズミ等による農作物への被害が富岡町でも発生している。
- ・ 富岡町で営農を再開した農家は7件であり、なかなか進んでいない。
- ・ 水田の除草ロボット(アイガモロボット)等は今後、費用対効果も検証する必要があるのではないかと。
- ・ 水田に除染後、山土を客土し、肥沃度は低下したが、堆肥等を投入するために、今後、耕畜連携を進めることが必要ではないかと。

(b) 今後の課題等

- ・ 地域を越えた連携には各大学が推進役となる必要があるのではないかと。
- ・ 福島大学の責任が大きく役割が期待される。

2. 福島大学主催「シンポジウム」について(新田)

新田より、福島大学主催の「シンポジウム」を6月に開催予定であること、福島大学学長、復興知事業責任者の生源寺 食農学類長が出席予定であること等が報告された。また、目的は、復興農学会の正式立ち上げであり、会則の決定、シーズ集の決定、テーマ討論を予定していること等が紹介された。

本件について意見交換の結果、①名称を「復興農学会準備会」シンポジウムとし、その中で復興農学会の正式立ち上げをうたった方がよい、②テーマ討論では「復興農学会は何をめざすか?」、「復興農学会に期待すること」等のテーマとし、議論のたたき台が必要、③名称「復興農学会」については、事前に、東北大学大学院研究科 東北復興農学センターに説明と了解が必要、④本事務局会議から復興農学会をととしたロードマップが必要、⑤復興農学会には農家の方、一般の方にも会員になって参加して欲しい、⑥「全体会議」等の記録を記事とした会誌を準備した方がよい、等の意見がだされた。

また、復興農学会としてはシンポジウムで立ち上げを決めたのち、2021年2月に(一社)日本農学会に学協会登録をすることが確認された。

シンポジウムを開催するにあたっては以上の点を含めて検討して準備を進め、とくに②、③、④については福島大学が検討を進めることとなった。また、福島大学学長等の日程を確認し、次回の本事務局会議で開催日等を提案することとなった。

3. その他

(1) 復興農学準備会 Web について

新田より、復興農学準備会 Web に掲載するため、下記を事務局（新田）に送るよう依頼があった。

- ・2018 年度「復興知」事業の成果報告書等
- ・各大学等で作成し閲覧可能なシーズ集の URL
- ・その他

以上

次回

事務局会議 2020 年 6 月 1 日（月）17 時 00 分～18 時 00 分 Zoom による Web 会議

「復興農学会」事務局会議（第6回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年6月1日（月）17時00分～18時00分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 大川 泰一郎（東京農工大学）、溝口 勝（東京大学）、内田 修司（福島高専）、青木 英二（同）、川妻 伸二（同）、伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、菅原 優（同）、中野 和典（日本大学）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）

欠席等連絡者 鈴木 茂和（福島高専）、登尾 浩助（明治大学）、岩城 一郎（日本大学）
（敬称略）

議事録

1. 「重点枠」実施4大学による復興大臣・文科大臣への「要望書」提出について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、5月26日（火）に、復興庁本庁と福島復興局（福島市）とをテレビ会議システムで結び、「要望書」を提出する「手交式」が行われたことが報告された。概要は以下のとおり。

福島大学からは三浦 学長のほか、事業責任者の生源寺 食農学類長、内田 事務局長、山崎 学長室長、新田が陪席した。復興庁からは、横山 副大臣、加松 福島復興局長が出席した。また、福島イノベ機構の山内 部長らも出席した。

福島大学の三浦 学長が要望2項目について説明した。その後、横山 副大臣より、「要望はしっかり受け止めた」と発言があり、また、「国際教育研究拠点形成の有識者会議の最終取りまとめには、国が責任を持って進めることと、復興知事業と関係を密にして進めることを含めることになっている。年内には最終取りまとめの案を確定したい」旨の発言があった。また、「復興知事業の今後の継続等については、文科省と連携するとともに、国際教育研究拠点形成との関係で適切に検討する」との発言があった。

なお、この「手交式」については福島民報、福島民友、河北新報の翌日の朝刊で報道された。

2. 「復興農学会」の組織について（松島）【資料】

松島 コーディネーターより資料にもとづいて「復興農学会」の組織形態について提案があった。復興農学会の中に「部会」を設け、福島部会、作物学部会、農業経営学部会…のような地域や分類・分野などが想定されること、さらに、「部会」の中にA 研究分野、B 研究分野などの「研究分野」をおくことが想定されること、などが提案された。本日の提案と議論は、今後の組織のあり方を検討する際の参考になることとなった。

3. 福島大学開催「シンポジウム」について（新田）

新田より福島大学「重点枠」事業で開催するシンポジウムについて提案があった。審議した結果、下記のような実施案とし、関係者・部署等に確認・調整をすることとなった。

名称 復興農学会設立記念シンポジウム

日時 2020年6月29日（月）16時00分～18時00分

方法 Zoom 利用

参加者

福島大学長、生源寺 教授（事業責任者）、本事務局会議メンバー、同大学等のメンバー、農家、一般市民、自治体、団体、企業等。

なお、5月26日（火）の「手交式」に臨席した横山 信一 復興副大臣に参加を依頼しあいさついただくことはどうかとの意見があり、新田が関係者に相談することとなった。

内容

- ・ 福島大学長あいさつ、事業責任者（生源寺 教授）あいさつ・統括
- ・ 復興農学会・シンポジウムの趣旨説明
- ・ 基調講演（案）
演者：福島県農業総合センター長（武田 信敏 氏）かどなたか？
タイトル：「福島の農業復興—これまでとこれからと—」
- ・ 「復興農学会」立ち上げ、会則等の決定
- ・ テーマ討論
テーマ：「復興農学会は何をめざすか？」 or 「復興農学会に期待すること」。これまでの各大学の復興知事業で得られた成果や今後の課題を踏まえ、説明後、討論に入る。具体的内容等のたたき台は福島大学が作成する。

留意点

- ・ 名称「復興農学会」について、事前に、東北大学大学院研究科 東北復興農学センターに説明と了解が必要。
- ・ 復興農学会のロードマップを作成する必要がある。
- ・ 復興農学会には農家の方、一般の方にも会員になってもらい参加して欲しい、

4. その他

(1) 本事務局会議構成大学等による「イベント」等の共催について

黒瀧 教授より、本事務局会議を構成する大学等が復興知事業で「イベント」等を実施する際は、他大学等が共催としてはどうかとの提案があった。審議の結果、提案のとおり了承された。

(2) 学生の参画事業について

黒瀧 教授より、本事務局会議を構成する大学等が夏休みに「サマーセミナー」等を実施することが復興知事業の実績となり、学生の復旧・復興活動を支援することにもなることが説明・提案された。審議の結果、本事務局会議を構成する大学等では「サマーセミナー」等を積極的に推進することが了承された。

(3) 本事務局会議の開催日時等について

次回から本事務局会議の開催日時を、毎週月曜日の 15 時 00 分～16 時 00 分とすることとした。

以上

次回

事務局会議 2020 年 6 月 8 日（月）15 時 00 分～16 時 00 分 Zoom による Web 会議

「復興農学会」事務局会議（第7回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年6月8日（月）15時00分～16時00分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、内田 修司（福島高専）、青木 英二（同）、伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、中野 和典（日本大学）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）、鈴木 伴承（同）、影山 千尋（同）

欠席等連絡者 大川 泰一郎（東京農工大学）、川妻 伸二（福島高専）、鈴木 茂和（同）、菅原 優（東京農業大学）、岩城 一郎（日本大学）、登尾 浩助（明治大学）
（敬称略）

議事録

1. 各大学等の取り組みについて（新田）

各大学等より本年度の「復興知事業」の取り組み状況や課題などが紹介された（福島大学、東京大学、福島工業高等専門学校、郡山女子大学、東京農業大学、日本大学）。

2. 「復興農学会設立記念シンポジウム」について（新田）

新田より、6月29日に開催予定の「復興農学会設立記念シンポジウム」について準備状況等が説明された。審議の結果、▼福島大学の主催ではなく主会場が同大学であること、▼暫定的に復興農学会の役職者等を予定した方がよいこと、▼「復興農学会」設立のための「設立総会」を開催すること、▼「テーマ討論」の内容の概要（案）を6月15日までに福島大学が作成すること、等が確認された。

名称	復興農学会設立記念シンポジウム
日時	2020年6月29日（月）16時00分～18時00分
方法	Zoom利用
参加者	福島大学長、生源寺 教授（事業責任者）、本事務局会議メンバー、同大学等のメンバー、農家、一般市民、自治体、団体、企業等。 なお、5月26日（火）の「手交式」に臨席した横山 信一 復興副大臣に参加を依頼しあいさついただくことはどうかとの意見があり、新田が関係者に相談中。
内容	・福島大学長あいさつ、事業責任者（生源寺 教授）あいさつ・統括 ・復興農学会・シンポジウムの趣旨説明 ・基調講演（案） 演者：福島県農業総合センター長（武田 信敏 氏）かどなたか？ →6月11日（木）にご説明。 タイトル：「福島の農業復興—これまでとこれからと—」 ・「復興農学会」立ち上げ、会則等の決定 テーマ討論 テーマ：「復興農学会は何をめざすか？」or「復興農学会に期待すること」。これまでの各大学の復興知事業で得られた成果や今後の課題を踏まえ、説明後、討論に入る。具体的内容等のたたき台は福島大学が作成する。
その他	・名称「復興農学会」について、事前に、東北大学大学院研究科 東北復興農学センターに説明と了解が必要 → 6月12日（金）に東北大学を訪問、説明。 ・復興農学会のロードマップを作成する必要がある。 ・復興農学会には農家の方、一般の方にも会員になってもらい参加して欲しい、

3. その他
なし

以上

次回
事務局会議 2020年6月15日(月) 15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

「復興農学会」事務局会議（第8回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年6月15日（月）15時00分～15時55分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 大川 泰一郎（東京農工大学）、溝口 勝（東京大学）、内田 修司（福島高専）、青木 英二（同）、伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、岩城 一郎（日本大学）、中野 和典（同）、丹野 史典（JST）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）、

欠席等連絡者 川妻 伸二（福島高専）、鈴木 茂和（同）、菅原 優（東京農業大学）、登尾 浩助（明治大学）、鈴木 伴承（福島イノベ機構）、影山 千尋（同）
（敬称略）

議事録

1. 「復興農学会設立記念シンポジウム」について（新田）

(1) 準備状況について

新田より「復興農学会設立記念シンポジウム」の準備状況等について、概略以下のとおり説明があった。また、東北大学 小倉 教授には、本会議に参加いただくよう依頼することとなった。

- ・横山 信一 復興副大臣の臨席依頼については、現在、「交渉中」との連絡があったこと（6月12日）。
- ・福島県農業総合センターを訪問した（6月11日。出席者：武田 信敏 所長、服部 実 副所長、新田、横山）。武田 所長に基調講演を依頼した結果、快諾いただいた。テーマは「福島の農業振興—これまでとこれからと—」とする。同一時間帯に別の会議があることから、講演を「事前収録」する予定とした。
- ・東北大学大学院農学研究科に「復興農学会」設立の説明と支援・協力の依頼に訪問した（6月12日）。出席者はつぎのとおりであった。阿部 敬悦 研究科長・学部長、伊藤 房雄 副研究科長、小倉 振一郎 附属複合生態フィールド教育研究センター長（イノベ事業担当）、田雑 征治 上席リサーチ・アドミニストレーター、新田、石井、横山。その結果、概略「本研究科として『復興農学会』を理解した。支援・協力するとともに参加したい。近く開催される教授会で、『シンポジウム』を構成員に案内して参加を促したい。本学のイベント等も「復興農学会」の一部と位置づけて欲しい。また『事務局会議』へも参加したい」旨の意向が確認できたこと。

(2) プログラムについて

新田より「復興農学会設立記念シンポジウム」のプログラム等について説明があり審議した。その結果、下記のように修正することとした。

また、あいさつ、基調講演等内容がタイトであり、全体の時間とあわせて考慮する必要があるとの意見があった。福島大学が検討することとなった。

修正（案）

名称	復興農学会設立記念シンポジウム
日時	2020年6月29日（月）16時00分～18時00分
主催	復興農学会設立準備委員会（委員長：生源寺 真一 福島大学教授）
主会場	福島大学
方法	Zoom 利用
参加者	福島大学長、生源寺 教授（準備委員会委員長・福島大学事業責任者）、本事務局会議メンバー、同大学等のメンバー、農家、一般市民、自治体、団体、企業等。

なお、5月26日（火）の「手交式」に臨席した横山 信一 復興副大臣に参加を依頼しあいさついただくことはどうかとの意見があり、新田が関係者に相談中。

内容

- ・（横山 信一 復興副大臣あいさつ）、福島大学長あいさつ、準備委員会委員長（生源寺 教授）あいさつ・統括
- ・復興農学会・シンポジウムの趣旨説明
- ・基調講演
演者：福島県農業総合センター長（武田 信敏 氏）
タイトル：「福島の農業復興—これまでとこれからと—」
- ・総会
「復興農学会」立ち上げ、会則等の決定。役員？
- ・テーマ討論
テーマ：「復興農学会は何をめざすか？」or「復興農学会に期待すること」。これまでの各大学の復興知事業で得られた成果や今後の課題を踏まえ、説明後、討論に入る。具体的内容等のたたき台は福島大学が作成する。

その他

- ・復興農学会のロードマップを作成する必要がある。
- ・復興農学会には農家の方、一般の方にも会員になってもらい参加して欲しい、

また、新田より資料にもとづいて役員候補の選任について説明があり審議した。審議の結果、会長は準備委員会委員長に依頼することが了承された。なお、監事（2名）が必要であり、役員に加えることとした。また、副会長（若干名）については、浜通り地域および全国（熊本など）の自治体、企業、団体等の関係者に就任していただきたいこともあることから、継続審議とすることとした。

つぎに、新田より資料にもとづいて、「テーマ」討論の内容（案）および「復興農学会」の「設立趣旨」（案）について説明があり審議した。審議の結果、種々修正が必要であることから、オリジナルファイルを構成員に配付して、意見等があれば加筆・修正の上、6月19日（金）までに新田に提出することとなった。

なお、石井 准教授がシンポジウムのポスターをおおむね今週中（6月19日ごろまで）に作成することが確認された。また、溝口 教授がシンポジウムで使う Zoom の URL を決定し、事務局に連絡することとなった。

2. その他

なし

以上

次回

事務局会議 2020年6月22日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

復興農学会 会則（案）

2020年6月★日制定

（名称）

第1条 本会は、復興農学会と称する。国内・外における自然災害・原子力災害等からの復旧・復興から得た農学・農業（農林水産業等）分野における知見・技術を、広く国内・外に発信していく学術的な非営利組織である。

（目的）

第2条 本会は、災害等からの復旧・復興に農学・農業分野で次の諸点で寄与することを目的とする。

- (1) 市民、教育・研究機関、企業、団体、自治体等の相互間の学術・技術・教育等の交流を進めること。
- (2) 市民、教育・研究機関、企業、団体、自治体等が復旧・復興にかかる事業で培った学術・技術・教育等の成果を「復興農学」として体系化し、深化と継続をはかること。
- (3) 市民、教育・研究機関、企業、団体、自治体等が学術・技術・教育等の成果を交え、広く国内・外で復旧・復興支援活動を進めること。

（事業）

第3条 本会は、上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 教育・研究活動の成果の共有
- (2) 共同事業の企画・推進
- (3) 研究会、シンポジウム等の開催
- (4) 教育・研究資料の収集・配布
- (5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

（会員）

第4条 本会の会員は、個人会員および団体会員で構成する。

- (1) 個人会員は、本会の目的に賛同する市民、教育・研究関係者等の個人とする。
- (2) 団体会員は、本会の目的に賛同する教育・研究機関、企業、団体、自治体等とする。

（経費および会費）

第5条 本会は事業を遂行するため、会員が下記の会費を前納するとともに、別途寄附金を受ける。

- (1) 個人会員 年額 2,000 円
- (2) 団体会員 年額 4,000 円

（役員）

第6条 本会に次の役員を置く。

幹事 若干名

監事 2名

- 2 幹事のうちから会長1名、副会長若干名を互選する。
- 3 会長は本会を代表し、その業務を処理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。副会長のうち1名は幹事長として、事務局業務を行う。
- 5 監事は、幹事の職務を監査し、事業および会計とそれらの報告等を監査する。
- 6 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(幹事会)

第7条 事業の円滑な運営を図るため、幹事会を設ける。

- 2 幹事会は、幹事をもって構成する。
- 3 幹事会は、必要に応じて会長が招集する。
- 4 幹事会は、会の重要事項について審議・決定し、執行する。

(事業および会計年度)

第8条 本会の事業および会計年度は、4月1日に始まり、3月31日に終わる。

(事務局)

第9条 本会の事務局は、会長の所属機関（または福島大学食農学類）に置く。なお、本会の総務の一部は福島大学食農学類が担当する。

復興農学会設立記念シンポジウム 抄録

文責 新田 洋司 (福島大学)

【シンポジウムの目的】

「復興農学会」は以下のような目的で設置を予定しており、それを確認し記念するために本シンポジウムを開催する。

- ・2018年度・2019・2020年度イノベ事業（一般枠）事業のうち本学に関連する農学関係の事業実施大学（※）と連携し、得られた成果や知見を共有し、浜通り地域の地域・自治体・企業等に成果を還元して社会実装をはかる。
- ※：東京大学、東京農工大学、東京農業大学、郡山女子大学、福島工業高等専門学校
- ・震災・原子力災害による被災と復旧・復興にかかる状況や情報を把握し、成果・知見を蓄積して今後有機的に活用する。
- ・構成員は研究者ばかりではなく、市民、農家、自治体、企業、団体等とする。大学生、高校生等の参加も期待する。
- ・幅広い学術分野の研究者等の参画により、復興農学を旗印とした新しい学際的・分野融合型の研究組織・形態を形成する。
- ・会報・学会誌を発行し、近い将来、査読制度を整えた論文の掲載を予定している。
- ・福島大学食農学類に事務局を置く。

【概要】

名称	復興農学会設立記念シンポジウム
日時	2020年6月29日（月）16時00分～17時45分
主催	復興農学会設立準備委員会（委員長：生源寺 眞一 福島大学教授）
主会場	福島大学（食農学類みらいホール）
方法	Webシステム「ウェビナー」利用（ https://forms.gle/kv2dpYZKaWhHVBXw8 ）
基調講演	武田 信敏 福島県農業総合センター所長
来賓	横山 信一 復興副大臣 亀岡 偉民 文部科学副大臣
参加者	会員として登録：54名、非会員：119名、その他：27名（計：200名） （内訳） 大学教職員：101名 大学学生・院生：48名、 研究機関・都道府県・市町村・公務員・科学技術振興機構：25名 企業・会社・団体：25名（うちマスコミ3名） 農家・一般：1名 イノベ機構：16名 その他：8名（うち両副大臣2名）

プログラム

16時00分	開会（新田）
16時05分	三浦 浩喜 福島大学長よりごあいさつ
16時10分	横山 信一 復興副大臣よりごあいさつ
16時15分	亀岡 偉民 文部科学副大臣よりごあいさつ
16時30分	復興農学会・シンポジウムの趣旨説明（生源寺 教授・新田）
16時35分	基調講演（武田 信敏 福島県農業総合センター所長） 「福島の農業復興—これまでとこれからと—」
16時50分	テーマ討論「復興農学会は何をめざすか？」

1. 三浦 浩喜 福島大学長ごあいさつ（全文）

三浦 浩喜 福島大学長

福島大学長の三浦です。復興農学会設立記念シンポジウムの開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

本日はお忙しい中、本シンポジウムにご参加いただき、ありがとうございます。福島大学は、昨年福島県民の悲願であった食農学類を新設し、新しい大学に生まれ変わりました。

キャンパスの中央広場を、カラフルな作業服を来た学生達が行き交う姿が見られるようになり、食農学類が誕生して学内の雰囲気ガラッと変わりました。先生方の研究も、食品加工や分析、米や果樹の栽培、さらには鳥獣対策など、すべてが地域課題に直結する意欲的なものばかりです。

さて、その食農学類は、「大学等の『復興知』を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業」（重点枠）に尽力しているところです。

これまで、福島県の農業復興は、本学をはじめ、全国の大学、各省庁、福島県をはじめ、農業試験場、関連機関、民間企業、JA、自治体、そしてなによりも被災された農業者の方々が、手を携えて進めてこられました。これらの成果と実績に心より敬意を表したく存じます。

本学の復興知事業は、これまでそれぞれが個別に進めてきた農業復興に関する事業を、福島大学が「扇の要」となって、体系化と総合化を図り、それを浜通りの地域や住民の皆様に還元することを目指すものです。その具体的な形が、この「復興農学会」を立ち上げであります。「本学会」は、研究者だけでなく、農家の皆さんや自治体、民間企業の方など、様々な形で農業に関わる全ての方にご参加いただき、今後の持続可能な農業と復興の在り方を考え、そして実践していくことを目的としています。

実は私も、福島県の農山村に長男として生まれ、父は地域一帯を農業基地にする夢を持っていましたがいずれもうまくいかず、私は農業のつらいところばかりをみて育ってきました。父はいつも、「農家も会社員と同じように、十分な収入と休みがなければ」と言っていました。この復興農学会は、農業に学術的なバックボーンを与え、農家のステータスを向上させ、農業に希望の光を与える取り組みであると言えます。私も農業に関わる一市民として、復興農学会が福島県の農業復興に果たす役割に期待しています。

本日、ご臨席をいただきました、復興副大臣 横山 信一 様、文部科学副大臣 亀岡 偉民 様におかれましては、福島復興ならびに福島大学の発展に多大なるご尽力をいただいておりますことを心より感謝申し上げますとともに、これを機に本県の農業のさらなる復興のためにお力添えをたまわれれば幸いに存じます。また、本日は、福島県農業総合センター所長 武田 信敏 様を講師にお招きし、「福島復興—これまでとこれからと—」と題してご講演をいただきます。福島復興にご尽力された経験から、有意義なお話しをいただけるものと期待しております。

最後に、改めまして、本シンポジウムの開催にあたり多大なるご支援・ご協力を賜りました多くの機関、皆さまに感謝申し上げますとともに、本日のシンポジウムがきっかけとなって、つぎのステップに大きく踏み出すことを祈念しまして、あいさつとさせていただきます。

2. 横山 信一 復興副大臣ごあいさつ（全文）

横山 信一 復興副大臣

復興副大臣を拝命しております横山 信一 でございます。

このたびは、復興農学会の設立、まことにおめでとうでございます。幅広い関係者の参画を得て、こうした設立記念シンポジウムが開催されますことに、心からお祝いを申し上げます。また、福島大学をはじめとして、福島における農学関係事業に取り組みられてきた東大、東京農工大、東京農大、郡山女子大、福島高専におかれましては、これまでの福島の農業復興に関するご貢献、および本学会設立に向けたご尽力に、あらためて敬意を表するしだいです。

さて、東日本大震災から9年あまりが経過しましたが、福島浜通り地域の農業復興については、帰還困難地域を除き除染は完了している一方、営農再開地域はいまだ29%にとどまるなど、引き続ききびしい状況が続いております。このような中、先の国会で成立しました「改正福島特措法」におきましては、地元の担い手農家の方々に加えて、外部からの参入も含めた農地の利用集積や、6次化施設の整備促進等の、営農再開に関する加速化措置も盛り込ませていただいたところです。また、今月8日には、福島浜通り地域の国際教育研究拠点に関する有識者会議第15回を開催し、座長から「最終取りまとめ」の提出をいただきました。生源寺先生には有識者委員としてご参加いただき、約1年近くにわたり農業分野を中心に大所高所から貴重なご意見をいただきました。改めて感謝申し上げます。有識者会議では国際教育研究拠点について、2014年以来さまざまな取り組みが進められてきた福島イノベーション・コースト構想を具現化し、福島浜通り地域の復興創生の実現をはかるために、産学官による魅力ある新産業の創出と、さまざまな分野の研究者や技術者等の持続的な育成を目的として、創造的復興の拠点、知の融合拠点、そして福島復興研究の集積および世界への情報発信拠点として整備を目指すべきとされたところです。また、その研究分野としては、福島浜通り地域の必須の分野として、新産業創出研究分野と原発事故対応、環境関係回復分野を掲げ、前者の中に農林水産業分野が位置づけられました。中でも農業につきましては、福島浜通り地域に欠かせない基盤産業であるとして多くの議論がなされたところであり、現在の状況を大規模な土地利用型農業の展開につながりうる研究環境として積極的に活動することや、福島ならではのテーマとして、人手不足の対応に不可欠なスマート農業の最先端の研究、実証等を強力に推進することが具体的に提案されております。有識者会議がとりまとめたこの国際教育研究拠点については、今後、世界水準の拠点にすると同時に、地元へ貢献する拠点にもできるよう、復興庁が中心となって関係省庁と連携し、関係地方公共団体等の意見を聞きつつ、さらに検討を行い、令和2年以内を目途に、政府提案を得ていく考えでございます。福島の農業復興に向けては、こうした取り組みと合わせて、何より専門家、専門機関、生産者、自治体、企業など、幅広い関係者の連携と取り組みが不可欠と考えております。本学会が多くの関係者を結びつけ、また、その成果が多くの関係者に還元されることにより、福島の農業復興を進める大きな一助となることをご期待申し上げてお祝いのあいさつとさせていただきます。

3. 亀岡 偉民 文部科学副大臣ごあいさつ（全文）

亀岡 偉民 文部科学副大臣

文部科学副大臣を拝命している亀岡 偉民 です。いまご紹介にあったように、私は福島が地元で、まさに平成23年3月11日に発生した東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故によって、福島の地はたいへんな環境に置かれました。この影響により、当初、約17万人の方が避難されており、現在も県内外に約38000人の方が避難生活を余儀なくされている状態です。

農業、農学の振興については、福島大学を中心とする複数の大学や自治体、企業、団体等の皆さまのご尽力により、多くの知見の蓄積や研究、教育、技術移転等の成果が蓄積されておりますが、完全な復興までにはまだ道半ばとされております。一方、昨年4月には福島大学に食農学類が開設され、食品産業や農林業での第一線での活躍や、行政や教育機関等で食品産業や農林業を支えることを目指す学生を受け入れ、福島県全域をキャンパスとして、6次産業化、先端農業の推進、福島ブランドの振興、地域再生など、地域の課題解決に主体的・創造的に取り組むリーダーを育成する教育が開始されました。あわせて、食農学類の研究、教育をより高いレベルで先導する発酵醸造学に関する研究所についても、他にはない機能を有する世界に誇れる施設として検討が進んでいます。これまでの文部科学省から、福島大学に、福島の農産物を生産、加工、流通の強化が、復興の大きな原動力になるという観点から、食農学類や発酵醸造学の研究所の整備にかかる経費として約5億円を措置してまいりました。引き続き、大学の構想を踏まえ、必要な支援をしっかりとしていきたいと考えております。

福島県は多様な気候風土による多彩な農産物生産と食文化を有する地域です。こうした強みをさらに昇華させるためにも、福島大学が長年蓄積してきた知見、経験と、食農学類や今後予定される発酵醸造学の研究所が中心となって担うことが期待されます。こうした中、被災地における農林水産業の復興活動を展開してきた方々が中心となって、福島のみならず、今後の国内外で生じうる災害や公害なども視野に入れて、持続可能な取り組みを目指すための農学の体系化と実践化を目指す組織として復興農学会が設立されたことは正しく時期にかなうものであり、福島のこれまでのよき伝統を受け継ぎつつ、これまでの成果や知見を有機的に活用し、さらなる復興に寄与されることを期待しております。むすびに、地元の皆様をはじめ、本日ご臨席の皆様におかれましては、引き続き、復興農学会および福島大学に対し、ご支援、ご協力をたまわりますようお願い申し上げますとともに、復興農学会、福島大学、ならびに、きょうご参加の皆様方のますますのご発展をお祈り申し上げたいと思います。われわれ文部科学省としては、できる限りこの皆さんがいままでの知見を生かし、できれば、これまでになく日本の農業と、できれば世界に誇れる発酵醸造学を含め、すばらしい農学を展開できるようなシンポジウムにさせていただきますよう心からお願い申し上げます、お祝いの言葉に代えさせていただきます。皆さん、がんばってください。

4. 復興農学会・シンポジウムの趣旨について（要旨）

生源寺 真一 福島大学教授

本日のシンポジウムにご参集いただきありがとうございます。今回はWebを利用した開催であり、ご不便を感じておられると思いますが、逆に県内外から多くの皆様に参加していただくメリットもあったかと思えます。感謝申し上げます。

復興農学会は、昨年（2019年）12月20日に、福島イノベーション・コースト構想推進機構による「復興知」事業の実施大学が中心となってシンポジウムを開催し、それがきっかけとなって学会組織を立ち上げる準備をしてきました。準備を進めてきた大学等の皆様、支えていただいた県内、県外の皆様にあらためてお礼申し上げます。

復興農学会の目的は、災害からの復興を、農学、農業の分野から進めることです。自然災害などいろいろな災害がありますが、東日本大震災、原発事故による影響からの復興が何よりもテーマになります。復興農学会は通常の学会とは異なり、市民の皆様、企業、自治体など、さまざまな皆様の参加をいただいて、交流を図りながらすすめていくところに特徴があります。通常の学会は、研究を進める、論文を書く、こういった意味合いが強いのですが、この復興農学会はそうではなく、開かれた組織としてスタートし、活動していきたいと考えています。

私は個人的には「つながり」が非常に重要だと考えています。1つは、「復興のための農学を目指した心」です。これは、浜通り、福島県内各地のいたるところにあります。しかし、その情報が共有されているとは必ずしも言えない面があります。情報を共有する、あるいは、条件が違っても応用が可能なこともあり、地域間のつながりを大事にしたいと思えます。

農学は「小さな大学」と言われることがあります。中には、物理学に近い分野もあれば、生物学に近い分野もあります。ややもすれば言語体系が違うこともあります。しかし、復興、復旧に向けて異なる分野の「つながり」を、あらためて深めていきたいと思えます。

3番目は、若い世代とのつながりです。学会というと大学のイメージですが、大学生、高校生などの若い世代を大事にしていきたいと考えています。

本日はこのあと、武田 信敏 所長に基調講演をいただき、「復興農学会は何をめざすか？」をテーマとする討論の2つの柱で進めてまいります。復興をめざして、実践性、貢献性など、抽象論だけではなく具体的に何ができるのか、何が必要かなどについて、議論を進めていただければありがたいです。短時間ですが、出発点にふさわしい充実したひとときとなることを祈念し、あいさつとさせていただきます。

5. 基調講演

演者 武田 信敏 福島県農業総合センター所長
演題 福島の農業復興—これまでとこれからと—

福島の農業、被災地域の農業はまだまだ復興の途上にある。そのような中、復興農学会は福島の農業の復興を加速化するものと期待している。東日本大震災、福島第一原子力発電所事故から10年を経とうとするいまの、福島の農業の復興の現況と課題について報告する。

震災前、原子力被災12市町村では、米を中心に、ムギ、ダイズ、野菜を取り入れた水田農業経営を展開していた。地域ぐるみの集落営農組織や農業法人を中心とした集落営農などを実践していた。また、浜通り地域では気象条件を生かして園芸作物に注力していた。トマト、ブロッコリー、ネギ、ダイコン、ジャガイモ、ナシ、キウイなどを生産していた。そして、何と云っても畜産が多かった。南相馬市、飯舘村、双葉郡、田村市では和牛の子牛の生産が盛んであった。南相馬市、浪江町、富岡町、川俣町田村市には会社組織の養豚が、大熊町、川内村、川俣町、田村市では大規模な養鶏が盛んであった。

原子力被災12市町村で、営農を休止した面積は17298ha、平成31年3月現在で営農を再開した面積は5038haで全体の約3割である。市町村別にみると、営農再開の状況は早い地域とまだこれからの地域の二極化がみられる。避難指示解除の早かった南相馬市、広野町、川内村、田村市で営農再開率が50%を超えている一方で、避難指示解除の遅かった浪江町、富岡町、楡葉町、葛尾村、飯舘村、川俣町で0.8~30%程度となっている。

避難地域の農業者の意向は、実農業者訪問数1774者の結果、営農再開者が518（29%）、未再開者が1256（71%）である。また、未再開者のうち再開の意向がある者が247（14%）であり、再開済み・再開意向ありの農業者は765者（43%）である。

2010年の農林業センサスによると、被災前12市町村では、1472の経営体、経営耕地面積が20869haあったことを考えると、現状では、圧倒的に担い手が不足していることがわかる。

復興関連基盤整備の状況をみると、整備が必要な面積は5427haとみられており、そのうち平成30年度末までで1187haが整備された（進捗率は22%）。

震災で失われた施設や営農再開に必要な施設の整備状況をみると、カントリーエレベーター、ライスセンター、水稻育苗ハウスなどの米関係が11箇所、トマトやイチゴなどの園芸関係の施設が9箇所、畜産関係3箇所など、全部で28の施設の整備が進んでいる。

つぎに、国が実施している農産物流通実態調査でも明らかになっているように、福島県産ブランドの位置は明らかに低下している。全国との価格差は、米、モモ、牛肉などをはじめとして震災前に戻っていない品目がある。

野生鳥獣による農作物の被害状況をみると、ここ3年間高止まりの傾向となっている。イノシシは毎年の捕獲が2万頭を超えているが、被害がなかなか減少していない。また、直接の被害ではないが、水田の畦畔が破壊されたり、農耕地が掘り起こされたり多くの被害がでている。

これまでみてきた被災12市町村の農業復興の状況をまとめるとつぎのようである。まず、①避難指示が徐々に解除されてきたが、帰還する農業者は頭打ちであり、担い手不足や農業労働力不足がきわめて深刻である。そして、②除染が完了し保全管理されている農地、圃場整備完了など生産可能な農地が拡大しているが、不在地主、農地の分散化、農地の地力低下などの課題が多い。また、③帰還困難地域を除いて農地除染は完了したが、周辺環境を含めてリスクが存在している。さらには、④10年目を迎えても依然とし

て風評が立ちふさがっている上、⑤イノシシやサルなどの鳥獣被害が拡大している。

それでは、このような状況を踏まえて、農業復興に向けて今後、どのような研究が必要かを考えてみたい。まず、①担い手不足に対応し、大規模で著しく労働生産性の高い農業を実現する技術開発、②マーケットインにもとづく業務用野菜や新品目の導入など園芸作物の産地化、ICT等を活用した園芸作物の高収量、高品質化技術の開発、③畜産の復興は欠かせない。耕畜連携とICT等を活用した効率的、省力的な管理技術の導入が必要である。そして、④使用可能な農地などの安全安心を確保する地力回復技術の開発、⑤安全・安心な農産物を安定して生産するための精度の高い放射性物質対策の確立、⑥風評をはねのける産地力の強化対策技術と、⑦イノシシ、サルなどの鳥獣被害対策技術の調査研究である。

最後に、福島の農業復興は10年目の節目を迎えて、昨年9月に農林水産省が発表した「福島の農業の復興、復旧に向けて」により、国、県、JAグループ等が連携して営農再開支援体制を強化し、福島特別措置法の改正により、農地集積や大規模化に向けた制度改正などを実施し、この4月より動き出している。また、生産と流通と加工、販売などを総合的に結びつける高収益産地構想も今年度中に示していくこととしている。国の農業復興に向けた必要な技術開発を進めていきたい。引き続き皆様のご支援ご協力をお願いしたい。

6. テーマ討論

進行 新田 洋司（福島大学食農学類）

(1) テーマ討論のキーワードについて

まず、新田よりテーマ討論のキーワードが下記のとおり提示された。

・知識・知見の「集積と実装」

各大学等の個別復興事業や研究、「復興知」事業、農業関係研究機関の研究が進んだ。したがって、知識・知見の「集積」は進んだが、社会や地域への「実装」は不完全ではないか。

・地域や国内・外からの「ニーズ」

地域や住民からの声や多様なニーズを生かしてきたか、いまのニーズと将来的で持続的なニーズが異なるのではないか。したがって、一緒に考え、持続的な社会を形成する必要があるのではないか。

・地域・自治体・企業・団体・大学等の「連携」

同一・近隣分野での連携が進んだ、社会実装もある程度進化した。しかし、狭い分野に集中しテイルののではないか、農業でも個別分野だけが進化したのではないか。

(2) 大学等から「復興知」事業の紹介と報告

東京大学 溝口 勝 教授：飯舘村

福島大学 石井 秀樹 准教授：川内村・南相馬市・飯舘村・大熊町

郡山女子大学 郡司 尚子 准教授：葛尾村

東北大学 小倉 振一郎 教授：葛尾村

日本大学 中野 和典 教授：葛尾村

東京農業大学 黒瀧 秀久 教授：浪江町

東京農工大学 大川 泰一郎 教授：富岡町

福島工業高等専門学校 内田 修司 教授：広野町

(3) 浜通り地域の農業復興のために、何が、どう、必要か？ どうだったらよいか？

出されたおもな意見を列記した。

復興農学会は自然災害等へも対応する

- ・（溝口教授、他）国内・外の災害等に対しても農業・農学の面から復興が必要。それを「復興農学会」が進めていく。
- ・（溝口教授）復興農学会は、今後想定される台風、洪水、干ばつなどによる被害からの農業の回復も想定しており、学会の「趣意書」にも盛り込まれている。具体的には多くの皆さんと一緒にやっていることになる。

具体的取り組みの事例と成果の発信について

- ・（内田教授）広野町での福島高専のプロジェクト対象の小学生。小学6年生。木曜日の放課後に活動している。小学生はまだ幼少だが興味をもっているし、取り組みの意義は深いと考えられる。
- ・（大川教授）「連携」については、農家・農業現場に集まることが大事。人が集まること。そこに課題

があって、一緒に考えて解決する。自治体の方にも来ていただく。現場が大事で、課題の抽出と解決、復興にはそれが一番有効だ。

- ・（大川教授）富岡町で生産された米を使って日本酒をつくった。醸造は二本松の会社（人気酒造）。富岡町を応援する市民や県外からの応援もあって、支援の輪が広がって進められている。
- ・（黒瀧教授）東京農大では浪江町で6次産業化を展開している。社会人の人材育成講座をやってきた。商品開発のノウハウを浪江町展開してきた。一例としてエゴマの商品化をサポートすることを進めてきた。東京農大学の大学祭でも試作販売を展開した。6次産業化のテキストを作り、学生、農家の方にも理解をしてもらえるようにした。
- ・（関谷東京大学准教授）被災地ではさまざまな取り組みを進めることが重要。海外から見ると、いまだこの地域が農業、食料の生産がむずかしいと誤解をされている。しかし、農業活動が行われている。子どもたちに農業を通じた学習も進んでいる。しかし、風評、誤解も海外からは特にまだ強い。やはり、情報発信をし、風評払拭につなげていくことが大事だ。

日本国内・世界への情報発信の必要性について

- ・（溝口教授）議論が内向きだと思う。福島県内や日本国内だけの話ではなく、原発事故で傷ついた地域ががんばっていること、世界に発信して、福島ブランドを皆で作って、福島の存在感、日本の存在感を世界に示すチャンスでもある。復興農学会が福島だけの話で終わらないようにすべきだ。
- ・（溝口教授）農業復興モデルで情報を発信していきたい。世界に発信するプロジェクトはあるか？ ないのでは？ そういうモデルを、皆さん作りましょう。
- ・（溝口教授）東京大学の飯舘村のプロジェクトでは、水田を自分たちで除染して、そこで酒米を作って、日本酒をつくった。その日本酒をつくるまでの過程がおもしろいとのことで、海外の研究者が来て取材し、「Made in Fukushima」本を作ってくれた。「レッドカーペーっと」を踏んだ。このようなおもしろい、重要な実績はほかにもある。世界に発信していく必要がある。

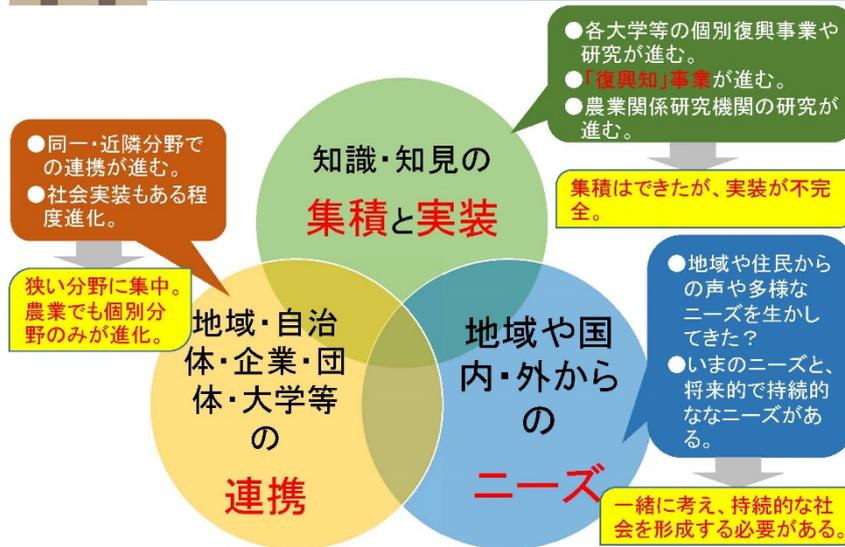
情報・データの共有について

- ・（望月福島大学准教授）分野横断の情報共有がうまくいっていない。今後、異なる分野への情報発信について手立てを考えて進めていくべきだ。
- ・（溝口教授）学会として、情報、生データをオープンにする。だれでもみえるようにしていくべきではないか。それは、大賛成だし、そう進めるべきだ。
- ・（石井准教授）原子力災害のあと、透明性、客観性が十分ではなかった部分もある。専門家としての信頼を失っている部分もある。データは研究者だけが出すのではなくて、市民、農家の皆さんも主体的に参画しながらデータを出していくことが大事だと感じている。データは研究者だけではなく、社会の中で共有を進めるべきだ。

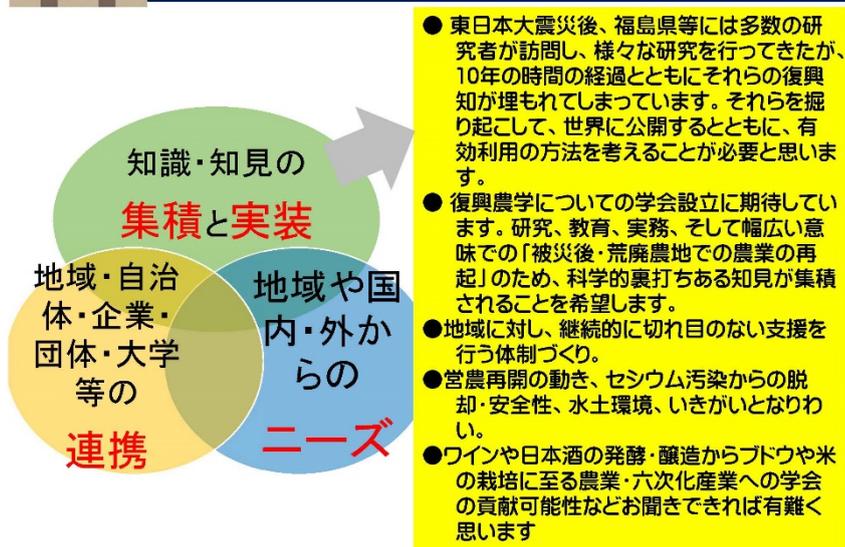
浜通り地域に人が入ることの必要性・重要性について

- ・（武田 福島県農業総合センター所長）浜通り地域で何が課題か？ 浜通りには人がいない、被災12市町村に人が戻ってきていないことが問題。外から入ってくる人や、地域の企業などにぜひ、福島の農産物をブランド化しつつ、日本国内、世界に発信していることが重要だ。浜通り地域の農業を担う担い手、それを支える担い手が最も重要だ。

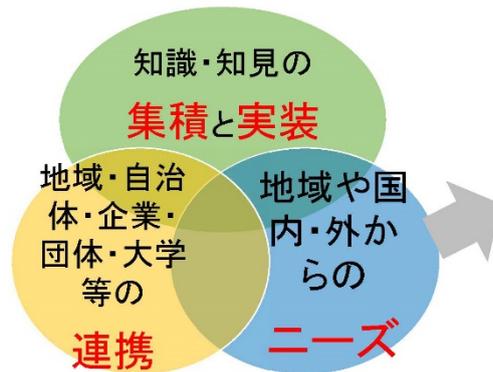
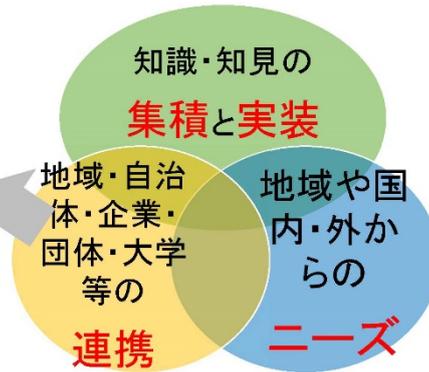
キーワード



事前アンケートの声 1/3



- 浜通りの農林水産分野では、技術的・科学的・社会的知見が絡み合った、複雑な課題が今なお山積しています。討論する議題を整理すれば、面白い討論になると思います。
- 特に水害への対策等、自治体と共にとどうすべきか、どうあるべきかを伺いたい。
- 被災地の復興について問題や取り組みを共有する場を設けることはとても意義が大きいと思います。
- 原発事故とコロナ禍と、見えない敵との向き合い方が似ていると感じています。大学や大学生が被災地の方と協働してできることに関心があります。
- エネルギー的にも持続可能な農業を農工連携も生かしながら実現していくという、次代の農業のあり方も議論して頂きたい。



- 儲かる農業や若人が参入できる農業。
- 地元のニーズに応えられるような体制づくりと活動の継続性について。
- これから起こると考えられる災害に対する対策などについて知りたいです。
- 被災地の農業の担い手はどうするのか。

以上

「復興農学会」事務局会議（第10回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年7月6日（月）15時00分～16時00分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 大川 泰一郎（東京農工大学）、溝口 勝（東京大学）、内田 修司（福島高専）、伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、小倉 振一郎（東北大学）、丹野 史典（JST）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、松島 武司（福島イノベ機構）

欠席等連絡者 杉野 弘明（東京大学）、青木 英二（福島高専）、川妻 伸二（同）、鈴木 茂和（同）、菅原 優（東京農業大学）、岩城 一郎（日本大学）、中野 和典（同）、登尾 浩助（明治大学）、横山 正（福島大学）、鈴木 伴承（福島イノベ機構）、影山 千尋（同）
（敬称略）

議事録

1. 「復興農学会設立記念シンポジウム」について（新田・石井・横山）

新田より、6月29日（月）に開催された「復興農学会設立記念シンポジウム」についてつぎのとおり報告があった。▼参加者およそ200名（事前登録160件、当日の画面上の参加者140件、当日の主会場参加者40名、その他（1題のパソコンから2名以上の参加）、▼動画は杉野 助教が記録し溝口 教授がアップしたこと、▼シンポジウム要録は福島大学で取りまとめていること。

また、新田よりシンポジウムの実施に際して事務局会議メンバーに謝辞があった。

2. 本学会の今後の運用・予定について（新田）

(1) 会費等について

新田より会費の徴収時期等について説明と提案があった。審議の結果、会費は2021年度から徴収することが了承された。また、学会の銀行口座は早めに設置することとなった。なお、今後は寄付等の申し込みが予想されるため、早期に対応できる体制を整えることとなった。

(2) 役員について

新田より本学会の役員選出について説明と審議依頼があった。審議の結果、幹事、副会長（若干名）、幹事長（1名）、監事（2名）については会則第6条にもとづいて選出するが、そのほかにも、渉外担当幹事、学会誌担当幹事、企画担当幹事、事務局幹事（庶務幹事、会計幹事）、アドバイザリーボードなどが必要との意見があった。また、本学会は所帯が大きくなり、発足したばかりであることから、今年度はすべての役員を選出する必要はないのではないかとの意見もあった。審議の結果、福島大学が整理して次回の本会議に提案することとなった。

(3) 次回のイベントについて

新田より本学会で実施する次回の「イベント」について審議依頼があった。審議の結果、この「イベント」の名称を「第〇回研究例会」とすること、第2回研究例会は福島大学が主担当で7月27日（月）15時00分～17時00分に開催（Zoom配信）すること、同時に「オンライン懇親会」も開催することが了承された。

なお、第3回（Zoom配信）については、8月に実施することとし、イノベ機構の「イベントカレンダー」をみて検討することとなった。

(4) 機関誌（学会誌）について

新田より本学会で発行する機関誌の内容について審議依頼があった。審議の結果、まずは「設立記念シ

ンポジウム」の要録を作成して（福島大学が作成中）、それを機関誌第1号に組み込むことが了承された。また、今後について、学会誌担当役員等を含めて今後検討することとなった。

(5) 本学会のPR・案内用のちらしについて

新田より本学会のPR・案内に使うちらしの作成について審議依頼があった。審議の結果、溝口教授が作成することとなった。

3. その他

なし

以上

次回

事務局会議 2020年7月13日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

復興農学会 第2回研究例会（南相馬市）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年7月27日（月） 15時00分～16時00分（研究例会）

16時00分～17時00分（懇親会）

場所 農事組合法人あいあぐり太田（福島県南相馬市原町区下太田榎町16）・ZoomによるWeb

出席者 27名

【南相馬市】大和田 英臣（あいあぐり太田代表理事）、奥村 健郎（同理事）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、山内 正之（福島イノベ機構）、影山 千尋（同）、松本 佳子（同）

【web】伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、永吉 智己（同）、安掛 真一郎（同）、溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、小倉 振一郎（東北大学）、内田 修司（福島高専）、本所 靖博（明治大学）、横山 正（福島大学）、石川 尚人（同）、河野 恵伸（同）、原田 茂樹（同）、林 薫平（同）、丹野 史典（科学技術振興機構）、松島 武司（福島イノベ機構）、佐藤 宏、他2名

議事録

1. 福島大学「復興知」事業の成果報告と意見交換（新田、石井）

新田、石井 准教授より南相馬市産米（あいあぐり太田産を含む）の品質・食味等の特徴について報告があり、意見交換した。

2. あいあぐり太田の紹介・事業報告と意見交換（大和田、奥村）

大和田 代表理事、奥村 理事より、農事組合法人あいあぐり太田の紹介と事業報告があった。概要は以下のとおり。

- ・個人経営では困難と考え農事組合法人を立ち上げた。7人運営し、3年目となった。活動拠点がこのたび竣工した。
- ・主要な栽培作物は水稻（55ha（慣行栽培、有機栽培、自然栽培））。ほかに、タマネギ、ダイズ、ナタネなどを栽培している。
- ・震災後、水稻の試験栽培を新潟大学、福島大学と協働で実施してきた。
- ・2013年には放射性セシウムが基準値を超過する米がでた。原因として、復旧作業中の原子炉から放射性セシウムの塵がでて降下したとの仮説が指摘されているが、原子力規制委員会は否定している。
- ・畑の上にソーラーパネルを設置し、ソーラーシェアリングの取り組みにも着手した。
- ・2014年からはナタネを栽培し、搾油を開始した。遊休農耕地の解消、6次産業化にも寄与したい。
- ・耕畜連携で家畜の糞尿を含む堆肥の利用も考えられるが、雑草の発生がネックになっており、必ずしも好適とは考えていない。
- ・食用米の品質・食味の向上が必要だ。玄米収量は10aあたり6俵であればよいと考えている。
- ・2017年からは自然栽培研究会を組織した。
- ・有機農法ではなく自然農法を目指しており、これを南相馬市のブランドにしたい。

3. 南相馬市および浜通り地域の稲作・米の状況について（大和田、奥村）

大和田 代表理事、奥村 理事より、南相馬市および浜通り地域の稲作・米の状況について紹介と報告があった。概要は以下のとおり。

- ・南相馬地域産米は、2年ほど前から地元市民が消費するようになり、拡大している。
- ・水稻品種「天のつぶ」はじめ飼料用用途が多い。食用比率を上げるのが課題。
- ・食用米の品質・食味の向上が必要。

4. 復興農学愛への期待・意見交換

- ・南相馬市では飼料用米の生産量が多い。たとえば飯舘村の飯舘牛をこの飼料用米で肥育するなど、連携してブランド化を考えられないか。
- ・地域や農家だけでは農業は立ちゆかなくなっている。復興農学会に橋渡しや強い連携を期待したい。

以上

次回

事務局会議 2020年8月3日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

「復興農学会」事務局会議（第13回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年8月3日（月）15時00分～15時25分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 伊藤 央奈（郡山女子大学）、溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、
内田 修司（福島高専）、丹野 史典（JST）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、
松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 第2回研究例会（7月27日、南相馬市）の議事録について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて議事録（案）への加筆と確定について報告があった。

2. 復興農学会設立記念シンポジウム抄録について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいてシンポジウム抄録（案）について説明があった。また、復興庁、文部科学省に提出することが報告された。気がついた点があれば8月5日（水）までに新田に連絡することとなった。

なお、参加者数について以下のとおり報告があった。

・会員として参加登録：54名、非会員：119名、その他：27名（計：200名）

（内訳）大学教職員：101名

大学学生・院生：48名、

研究機関・都道府県・市町村・公務員・科学技術振興機構：25名

企業・会社・団体：25名（うちマスコミ3名）

農家・一般：1名

イノベ機構：16名

その他：8名（うち両副大臣2名）

3. 復興農学会設立総会議事録（案）について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて議事録（案）の説明があった。気がついた点があれば8月7日（金）までに新田に連絡することとなった。

4. 第3回研究例会について（黒瀧）

黒瀧 教授より復興農学会研究例会（第3回）とジョイントする東京農業大学の「イベント」について説明があった。下記の「イベント」を研究例会（第3回）として共同させていただくことが了承された。

東京農業大学 浪江町復興講座③

日時 2020年9月19日（土）13時30分～15時30分

場所 浪江町

講演 野生動物の行動生態と鳥獣害対策（仮）

講演 山崎 晃司 教授（地域環境科学部森林総合科学科）

5. その他

以上

次回事務局会議（第14回） 2020年8月24日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

「復興農学会」事務局会議（第14回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年8月24日（月）15時00分～16時10分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 伊藤 央奈（郡山女子大学）、溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、渋谷 往男（東京農業大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、内田 修司（福島高専）、丹野 史典（JST）、新田 洋司（福島大学）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 会則、総会議事録の一部改正について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、メール審議で了承されている会則、総会議事録の一部改正について説明があった。いずれも、ゆうちょ銀行で郵便振替口座を開設するにあたって必要な改正であり、改正箇所について以下のとおり報告があった。会則および総会議事録中の会則で、▼「事務局」を「事務所」に修正、▼総務の一部を担当する福島大学食農学類の所在地を明記、▼会則の施行日を附則で明記。

2. 復興農学会設立記念シンポジウム抄録について（新田）

新田よりシンポジウム抄録が、最終的に確認中であること、確認後は復興農学会 Web にアップするとともに、復興庁、文科省に提出する予定であることが報告された。

3. 各大学等の「復興知事業」の今年度の実施・進捗状況と課題、連携について（新田）【資料】

今年度の各大学等の「復興知事業」の実施・進捗状況について、各大学等より報告があった。おもな意見は、▼各大学ともコロナ禍の影響で学生を当該地域に派遣できないか、派遣できても条件が厳しく、人数も制限されていること、▼当初の予定どおりの事業が十分に展開できていないこと、▼イベント等を予定を変更して実施し、別の新たな成果も得られたこと、▼圃場に気象観測装置やWebカメラを設置して観測するシステムを拡大して実施していること（溝口 教授と連携）、▼9月以降は徐々に当該地域で活動を本格化させたいこと、などであった。

東京大学（飯舘村）：溝口 教授、福島大学（川内村、南相馬市、飯舘村、大熊町）：新田、郡山女子大学（葛尾村）：伊藤 講師、東北大学（葛尾村）：小倉 教授、東京農工大学（富岡町）：大川 教授、福島工業高等専門学校（広野町）：内田 教授、東京農業大学（相馬市）：渋谷 教授

松島コーディネーターより、各大学等の活動内容や知見を多くの自治体（農家）に公報するWeb会議の開催頻度を上げることを検討してはどうかとの提案があった。本件については、自治体等のWeb環境が十分でない問題もあるが、引き続き各大学等で呼びかけていることとなった。

また、関連して、葛尾村での学生活動について下記のTwitter記事の紹介があった。

https://twitter.com/Hiroki_YOD/status/1296784000996929536

なお、新田より、福島大学の復興知事業の一環で「福島フォーラム」を9月7日（月）17時より開催予定であり（小山 良太 福島大学教授が話題提供）、案内と参加の依頼があった。

4. 学会誌の内容・編集等について（新田・横山）

新田、横山より学会誌の内容・編集等について以下のように内容の暫定案の提案があった。

内容（案）：設立趣旨、学会長あいさつ、規則集、設立記念シンポジウム抄録、「復興知事業」の各大学の活動概要、会員からの期待や思い（寄稿）。

また、設立記念シンポジウムに来賓として出席した横山 復興副大臣、亀岡 文部科学副大臣からのメッセージや、論文の投稿規定・原稿作成要領についても、今後、横山 特任教授が中心になって福島大学で検

討することになった。また、紙媒体・電子媒体のいずれにするかについても、今後、検討することとなった。

5. その他

(1) 各大学等のコロナ禍における状況について

各大学等におけるコロナ禍の影響等について報告があった。とくに、大学院入試の実施について、東京大学大学院農学研究科ではリモートで試験を実施したこと、東北大学大学院農学研究科ではきびしい感染防止対策のもと対面で実施したこと等が報告された。

以上

次回

事務局会議（第15回） 2020年8月31日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

第3回研究例会 2020年9月19日（土）13時30分～15時30分 浪江町（東京農業大学主催（復興農学会共催） 浪江町復興講座③とジョイント）

「復興農学会」事務局会議（第14回）議事録（案）

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年8月31日（月）15時00分～16時10分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 伊藤 央奈（郡山女子大学）、溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、菅原 優（同）、大川 泰一郎（東京農工大学）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録（案）

1. ゆうちょ銀行口座の開設準備状況について（新田）

新田より、口座開設のための書類の再修正が完了し郵便局に受理されたこと（8月24日（月））、現在、書類が仙台のゆうちょ銀行部署に送られて審査中であり、利用できるまでおよそ1か月かかる見通しであることが報告された。

2. 学会誌の内容・編集等について（新田・横山）【資料】

新田より、先回までの検討状況が報告されされた。

横山 特任教授より資料にもとづいて投稿規定（案）について説明があり、審議された。おもに下記のような意見がだされ、今後検討することになった。▼電子ジャーナルとする（ただし、第1巻（号）は記念誌であることから冊子体も発行する）、▼第1巻（号）を本年12月に発行する、▼投稿資格と会員資格は別にする、▼原稿の種類にオピニオン、ニュース、「現場からの報告」を設ける、▼「報文」は「原著論文」とする、▼原稿作成要領、投稿料などは他の学協会の例を参考にする、▼全体にわたって他の学協会（土壤物理学会、他）の例を参考にする、▼編集委員会・事務局に大きな負担にならないようにする、

3. 第3回東京農大・浪江町復興講座の開催について（菅原）【資料】

菅原 教授より資料にもとづいて、9月19日（土）に復興農学会共催で開催される東京農大・浪江町復興講座について説明があった（第3回研究例会）。案内文書を広く公示し参加を呼びかけることとなった。

4. 「復興知」事業の来年度以降の事業継続要望について（菅原）

菅原 教授より、本年度で終了予定の「復興知」事業の、来年度以降の事業継続について、関係機関・省庁等への事業継続要望について提案があった。審議の結果、▼来年度も一定規模の予算が確保され事業が継続される可能性があるとの情報があること、▼「重点枠」実施大学によって復興大臣・文科大臣あてに事業の継続要望書が提出されていること、等から、現時点においては、復興農学会として新たな要望書等は提出せず、引き続き情報収集にあたることが確認された。

5. 福島大学主催「福島フォーラム」の開催について（石井）

石井 准教授より9月7日（月）17時より「福島フォーラム」を開催し（Web開催）、小山 良太 福島大学教授（農業経済学、経営・経済農学）が話題提供する予定であること等が報告された。審議の結果、このフォーラムについても、復興農学会が共催とすることが了承された。また、案内文書を広く公示し参加を呼びかけることとなった。

6. その他

なし

以上

次回

事務局会議（第15回） 2020年9月7日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

「福島フォーラム」 2020年9月7日（月）17時00分～ 福島大学主催・復興農学会共催

第3回研究例会 2020年9月19日（土）13時30分～15時30分 浪江町（東京農業大学主催・復興農学会共催。浪江町復興講座③とジョイント）

「復興農学会」事務局会議（第16回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年9月14日（月）15時00分～16時15分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 伊藤 央奈（郡山女子大学）、溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、内田 修司（福島高専）、丹野 史典（JST）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 学会誌の内容・編集等について（横山）【資料】

横山 特任教授より資料にもとづいて説明があった。審議の結果、出された意見をもとに修正し、再度検討することとなった。出されたおもな意見はつぎのとおり。なお、J-STAGE サイトに掲載できるように、体裁を検討し準備を進めることとなった。

・ 会誌編集委員会規程

▼「各50人以内」は不要、▼編集常任委員会は不要。

・ 原稿作成要領

▼略表題、所在地は不要、▼原稿の種類に「現場からの報告」を入れる、▼本文も1段とし、1ページ51行、1行50文字とする、▼原稿の種類にかかわらず英文タイトルをつけることを必須とするが、英文タイトルを作ることが困難である場合、著者は編集委員会に相談することなどを加える、▼原著論文では英文要旨を必須とする、▼当該研究の研究費の出所（科研費など）は「謝辞」に記載する、▼「本文」の作成要領で「専門用語」などの記載（7. 本文の（3）以降）は削除し、当該部分は「日本農学会の記載方法に準ずる」などとする、▼図・表は本文中には入れず文末にまとめておく、▼図・表は、図1、表1などとする、▼「試験成績書」からの引用、「私信」などの表記をどこに入れるかなどは指定しない。

・ 原稿例

▼ワードでテンプレートを作成する、▼図・表の大きさは過大・過小にしない。

・ 投稿規定

▼「人災」は「人為災害」とする、▼「現場からの報告」を入れる、▼原稿の刷り上がり枚数は、図・表を含めて、原著論文10ページ、ノート5ページとする、▼投稿料、超過ページ代は無料とし、このことを記載する。

2. その他

(1) 第3回研究例会について

新田より第3回研究例会（下記）の開催について照会があり参加依頼があった。

(2) 郵便振替口座の開設について

新田より郵便振替口座の開設について、会則の修正が必要であることが報告された。ついては、新田が修正案を作成して、メールで検討し進めることとなった。

(3) 復興農学会のロゴマークについて

溝口 教授より本学会のロゴマークを作成してはどうかとの提案があった。作成する候補者がすぐには見当たらないため、引き続き検討することとなった。

以上

次回

第3回研究例会 2020年9月19日(土) 13時30分～15時30分 浪江町(東京農業大学主催・復興農学会共催。浪江町復興講座③とジョイント)

Zoomによる参加：<https://zoom.us/j/94680476015?pwd=QU1rYVpwZjRhZFIYSjZ2d0FzZTIwUT09>

ミーティングID: 946 8047 6015 パスコード: 6SxskD

事務局会議(第17回) 2020年9月28日(月) 15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

「復興農学会」事務局会議（第17回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年9月28日（月）15時00分～15時55分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 伊藤 央奈（郡山女子大学）、溝口 勝（東京大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、内田 修司（福島高専）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 会則の一部改訂について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、ゆうちょ銀行で郵便振替口座を開設するのに伴って必要になった会則の一部改訂について、メール審議で異論・修正意見等がなく了承され、書類がゆうちょ銀行に提出されたことが報告された。修正は、第7条に「総会」の条文を設け、予算および決算の承認要項を加えたこと、第7条（総会）および第8条（幹事会）に議決の際の多数決の原則を加えたこと、であることが説明され確認された。

2. 学会誌の内容・編集等について（横山）【資料】

横山 特任教授より資料にもとづいて、学会誌の内容・編集等について修正案が説明され審議された。以下の点が了承または整理することとなった。▼「会誌編集委員会規程」を設け条文を整理したこと、▼「原稿作成要領」では、図・表のJPEGファイルの解像度については、石井 准教授が必要な解像度・表現等を検討したのち、その文言を加筆すること、▼「投稿規定」では、「I. 総則 1.」に、会誌を毎年1、7月に発行することを加筆すること、▼「原稿例」では、「要旨」、「キーワード」、「Abstract」、「Key word」のフォントをボールドにすること、▼「原稿例」の「引用文献」で「ウェブ情報の場合」には、URLの直後に閲覧日を“(2020年9月28日閲覧)”のように記載すること。

なお、会誌編集委員会について、当面の間、本事務局会議メンバーが担当することが提案され、審議の結果了承された。また、会誌への広告の入れ方、DOIの登録・利用方法、著作権協会への申請等については、横山 特任教授が調査して次回以降の本会議で報告するとともに、必要があれば規定等に含めることが了承された。

3. その他

なし

以上

次回

福島フォーラム 2020年9月28日（月）17時00分～、話題提供：深山 陽子 福島大学食農学類准教授、
話題：福島復興における施設園芸の役割。復興農学会共催。

Zoomによる参加：<https://zoom.us/j/93015434438?pwd=U29ubjY5VWJFYm1aTW9pdGtxV2p6Zz09>、パスワード：095311

事務局会議（第18回） 2020年10月5日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

「復興農学会」事務局会議（第18回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年10月5日（月）15時00分～15時40分

方法 ZoomによるWeb会議

出席予定者 伊藤 央奈（郡山女子大学）、溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、菅原 優（東京農業大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、内田 修司（福島高専）、新田 洋司（福島大学）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 学会誌の内容・編集等について（横山）【資料】

横山 特任教授より資料にもとづいて、「編集委員会規程」、「原稿作成要領」、「原稿例」、「投稿規定」の修正案が説明された。審議の結果、▼「原稿作成要領」で図表ファイル形式に“(カラー画像 350dpi 以上、白黒画像 200dpi 以上)”を加筆、▼「原稿作成要領」および「原稿例」のWEB情報に“(2020年10月4日閲覧)”を加筆し、確定することが了承された。今後は、本学会ホームページにこの情報をアップし（溝口教授）、論文原稿の募集を始めることとなった。

2. 入会申込書について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、入会手続きをホームページでできない場合に使う「入会申込書」（案）について提案があった。審議の結果、了承された。なお、入会の手続きにはホームページを使うことを基本とし、ホームページでの入会手続きが困難な場合にのみこの「入会申込書」を使うことが確認された。

3. 第4回研究例会の開催について（菅原）

菅原 教授より、10月17日に浪江町で開催される「浪江町復興講座」（テーマ：地域資源を用いた6次産業化の取り組み）について説明があった。審議の結果、本学会の共催とすること、また、第4回研究例会とすることが了承された。

浪江町復興講座④

テーマ 地域資源の活用と六次産業化—オホーツク産小麦ともち麦を中心に—

講師 小川 繁幸 氏（東京農業大学自然資源経営学科 助教）

日時 10月17日（土）13時30分～15時00分

場所・方法 浪江町地域スポーツセンター・Zoom

主催 東京農業大学

共催 復興農学会

4. 東京大学農学部オンライン公開セミナーの開催について（溝口）【資料】

溝口 教授より資料にもとづいて、10月17日にオンラインで開催される「公開セミナー」（東京大学大学院農学生命科学研究科における福島復興支援に係る教育研究の総括シンポジウム）について説明があった。審議の結果、本学会の後援が了承された。

第2回東京大学農学部オンライン公開セミナー

東京大学大学院農学生命科学研究科における福島復興支援に係る教育研究の総括シンポジウム

日時 10月17日（土）10時30分～17時00分

方法 Zoom

主催 東京大学大学院農学生命科学研究科

共催 （公財）農学会

後援 復興農学会、東京大学東日本大震災復興支援室

5. 「復興知」事業の後継事業について（松島）【資料】

松島 コーディネーターより資料にもとづいて、現在の「復興知」事業の後継事業について、文科省が概算要求を提出したことが報告された。また、種々意見交換があった。

6. ゆうちょ銀行の振替口座の開設について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、ゆうちょ銀行の振替口座が開設されたことが報告された。

口座記号番号 00140-5-488013

口座名称 復興農学会（フッコウノウガツカイ）

加入者払込店・加入者払出店 金谷川

他行等からの振り込みの受取口座の場合

店名（店番） 〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）

預金種目 当座

口座番号 0488013

7. その他

松島コーディネーターより、本年度はコロナ禍にあつて「復興知」事業の推進には困難が伴っているが、各大学等にあつては予算を有効に活用して欲しいとの助言があつた。

以上

次回

事務局会議（第19回） 2020年10月12日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議

第4回研究例会 2020年10月17日（土）13時30分～15時00分、「浪江町復興講座」（テーマ：地域資源を用いた6次産業化の取り組み）、浪江町・Zoom、本学会共催

東京大学農学部オンライン公開セミナー 2020年10月17日（土）10時30分～17時00分、東京大学大学院農学生命科学研究科における福島復興支援に係る教育研究の総括シンポジウム、Zoom、本学会後援

「復興農学会」事務局会議（第19回）議事録

文責 石井 秀樹（福島大学）

日時 2020年10月12日（月）15時00分～

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、菅原 優（同）、小倉 振一郎（東北大学）、中野 和典（日本大学）、丹野 史典（JST）、石井 秀樹（福島大学）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 会誌の編集・発行等について（横山）

(1) 復興農学会誌の英文タイトルについて

- ・英文略語も意識して検討すべきである（溝口）。
- ・事務局会議中に検討が困難なため宿題とする（溝口）。
- ・事務局へ案を提示すること（石井）。

以上が確認された

(2) 創刊号の内容について（横山）

- ・巻頭言（生源寺）
- ・設立趣旨書
- ・副大臣の挨拶
- ・設立シンポジウムの内容

以上があることが確認された

(3) 学術論文などのコンテンツについて

- ・東京大学は原著論文2本の構想があること（溝口）
- ・東京農業大学は10周年なので本を出版する計画があるが、それと競合しない内容で検討すること（黒瀧）
- ・東北大学は関係者に呼びかけをすること（小倉）。
- ・福島大学も検討中であること（石井）

以上が確認された。

(4) その他のコンテンツについて

- ・首長からのメッセージ
- ・川俣町町長だけでなく、飯舘村長にも声をかけたい（溝口）
- ・相馬市長も受けてくれそう（黒瀧）。
- ・全ての首長にも声をかけないわけにはゆかぬが、一度に掲載できない事の配慮（石井）
- ・何年かに分けて声掛けをすること（黒瀧）、順番にいずれお願いすることを伝える（溝口）

以上が確認された

(5) 復興農学会誌の編集スケジュールについて

- ・1月公開のスケジュールがタイトな事。そろそろ編集委員会を動かす必要がある（石井）
 - ・学術論文は仮エントリーを求めた方が良いのか？。査読者を決めるためにも（石井）
 - ・創刊号は身内からの記事が中心となるなら、何とか捌ける見込みがたつ（溝口）
 - ・創刊号は出すことが大事なので、ある程度のレベルと判断したものはできるだけ掲載してゆく方向で進めてゆくのが良いのでは。弾力的な進め方が必要（黒瀧）
 - ・年末年始に査読ができるとうい。それを旨とした段取りが必要か（石井）。
- 以上が確認された

(6) 現場の人からの声について

- ・現場の声を大切にしたい。誰かに意識的に依頼をした方が良い。我々がサポートし、サンプルを作る。富岡の渡邊さんに大川先生にサポートしていただいて掲載できないか（溝口）。
- ・書き下ろしが大変ならインタビューでも良いのでは？（溝口）
- ・渡邊さんに声掛けをする（横山）
- ・5月の研究例会の内容を紹介しても良い（黒瀧）。
- ・録画しているので、記録はあるはず（石井）。

以上が確認された

(7) 復興農学会としての方向付ける特集記事について

- ・コロナ禍でシンポジウムが開催できていないが、復興農学会のミッションを明らかにする企画を立てて、掲載をする必要があるのではないか。投稿規定だけでは伝わらない学術誌の性格を示すことも必要では。（石井）
- ・それは創刊号ではやるべきかもしれない。ウェビナーで収録すれば可能（溝口）。
- ・溝口先生も書かれた IOT の書籍の書評なども。学会誌というとなくなる（松島）。
- ・学会誌を作る前に、何かのテーマで議論をして、そのエッセンスを学会誌に収録する。興味がある人は、さかのぼって映像を見る。そういうことができると。情報誌としての価値、これを見れば動きが分かるぞと（溝口）。
- ・11月中にディスカッションの場を持つ。テーマ案を事務局に提案して下さい（石井）
- ・福島関連の簡単な書評も必要では（黒瀧）
- ・書評をした方がよいものもお寄せください（石井）。

以上が確認された

2. 自治体・企業の学会参加者の促進について

- ・復興農学会の呼びかけパンフレット案を作っているので共有します（溝口）

3. 事務局会議の開催頻度について

- ・後期に入り面会授業が増える中で、会議をもつ曜日・頻度の再検討が必要では（事務局）。
- ・事務局会議は隔週にして、研究会、編集会議をするなど部局ごとの体制を組んでも良い。準備段階から、アクションに繋げてゆくことを検討してゆきたい（事務局）
- ・復興農学会としてのアクションを定め、それに必要な会議を設定すべき。マイルストーンを改めて定めた方が良い（松島）。

以上が確認された。

以上

今後の予定

- ・「福島フォーラム」 2020年10月19日（月）16時30分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供：熊谷 武久 教授
- ・事務局会議（第21回） 2020年10月26日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議
- ・「福島フォーラム」 2020年11月9日（月）16時30分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供：尾形 慎 准教授
- ・「福島フォーラム」 2020年12月21日（月）16時30分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供：二瓶 直登 准教授

「復興農学会」事務局会議（第20回）議事録

文責 石井秀樹（福島大学）

日時 2020年10月19日（月）15時00分~16時20分

方法 ZOOMによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、石井 秀樹（福島大学）、横山 正（同）、
松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 学会と学会誌の英文名について

石井より、事務局に寄せられたタイトルを共有した。また参加者からも案が提示された。

小倉案：

復興農学会 Association of Agricultural Science for Reconstruction and Resoration

または Society of Agricultural Science for Reconstruction and Resoration

復興農学会誌 Journal of Agricultural Science for Reconstruction and Restoration

（頭をとると JASRAR?）

「復興」に関する単語についてちょっと検索して比較してみました。reconstruct は「損傷を受けたものを再度機能させる」という意味だけでなく、「これまでのシステムを見直し再構築する」という意味もあるようです。「日本をより良い国にしていこう、東北を蘇らせよう」という意志、未来への希望を意味するのは、revocer よりもむしろ reconstruct だと思います。また、reconstruct は主に物理的な復興を意味するのに対し、restore は社会システム、モラルまたは精神的な復興を意味するようです。したがって、reconstruction と restoration を両方入れるのが良いのではないかと考えました。

溝口案：

Society of Reconstruction Agriculture (SRA)

☞ 復興農業学会,復興農業学会 (DeepL, Google 翻訳)

Reconstruction Agriculture Society (RAS)

☞ 復興農業協会,復興農業社会

Reconstruction Agricultural Society

☞ 復興農学会,復興農業社会

横山案：

復興農学会誌 Science for Reconstructions from Natural and Man-made Disasters in Agriculture

石井案：

復興農学会 Society of Agricultural Science for Revitalization.

論点① 何のワードをもって復興を表現するか？

Reconstruction/ Resoration/ Revitalization

論点② 何のワードをもって学会を表現するか？

Association/ Society

※Association だとリジッドな組織体を連想させる。Societyの方が、地域を交えた実践コミュニティのニュアンスも表現できそう（溝口、石井）

2. 学会誌の特集について

石井より、被災14自治体の首長へのご寄稿について、「復興農学会としてのインタビュー・対談記事」としてまとめる事の提案をした。理由は、①復興農学会の認知が不十分な中でのご寄稿も難しい点、②インタビューを通じて復興農学会を自治体にPRするとともに、連携関係を積極的に

持つため、の2点である。想定自治体としては、10月27日に新規就任される飯舘村・杉岡誠次期村長を提案した。溝口委員からは「時宜を得ている、日程が合えば参加する」とのご意見を頂いた。

事務局より目次案を提示し、別の自治体首長への訪問是非も含めて、次回事務局会議で決定としたい。

3. 会議の持ち方について

後期学期がはじまり、月曜15時の参加が難しい先生も多く、会合の持ち方について、改めて検討議案とすることが事務局から提案され、了承された。

以上

今後の予定

- ・事務局会議（第21回） 2020年10月26日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議
- ・「福島フォーラム」 2020年11月9日（月）16時30分より 福島大学食農学類みらいホール・Web
話題提供：尾形 慎 准教授
- ・「福島フォーラム」 2020年12月21日（月）16時30分より 福島大学食農学類みらいホール・
Web 話題提供：二瓶 直登 准教授

「復興農学会」事務局会議（第21回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年10月26日（月）15時00分～15時45分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）
（敬称略）

議事録

1. 学会誌の内容・編集等について（横山・新田）

(1) 本学会および学会誌の英名について

新田、横山 特任教授より本学会および学会誌の英名について、これまでの検討結果や出された案について説明があり、いくつかの最終案が示された。

審議の結果、学会の英名については、復興庁の英名が Reconstruction Agency であること（Restoration（復旧）は使っていない）、シンプルな名称がよいこと、略称が他の大きな企業・団体等が使っているものと同じにならないこと等を考慮して、Society of Reconstruction Agency (SRA)とすることに決定した。

また、学会誌の英名については、「Science …」を冒頭に付すと学術的な色が強くなり、農家や市民、自治体等も参加する本学会の学会誌の名称としてやや敬遠されそうなニュアンスになるため避けた方がよいと考えられること、上記の学会の英名に近くシンプルな名称がよいこと、農業を中心としつつ社会科学など広い分野を含む学会であることがわかるようにしたいこと、略称が他の大きな企業・団体等が使っているものと同じにならないこと等を考慮して、Journal of Reconstruction Agriculture and Sciences (JRAS)とすることに決定した。

(2) 第1号の投稿論文等の締め切りについて

新田、横山 特任教授より学会誌第1号の投稿論文等の締め切りを11月末としたいとの提案があった。審議の結果、了承された。

(3) 第1号のコンテンツについて

黒瀧 教授より学会誌第1号のコンテンツについて、「復興知」事業実施大学の取り組みを紹介する記事と、コンテンツ・原稿収集状況等の一覧の整理が必要との意見があった。また、溝口 教授より、会長に「巻頭言」などを原稿執筆を依頼してはどうかとの提案があった。

審議の結果、了承された。また、横山 特任教授がまとめて次回の本会議で提示することとなった。

2. 事務局会議の今後の運営・開催方法等について（新田）

新田より、本事務局会議はメンバーが多忙をきわめていて、ここ数回出席者が少なく、運営・開催方法等について再度検討したいとの提案があった。また、本事務局会議メンバーが、本学会の運営の全般に関わっていることから、現状においては部門制は採用しない方がよいとの説明があった。審議の結果、本事務局会議の有効な運営・開催方法等について、新田がメンバーに意見を聴取し（「伝助」利用）、次回の本会議で案を提案することとなった。

3. 「第5回 東京農業大学・浪江町復興講座」の共催について（黒瀧）【資料】

黒瀧 教授より資料にもとづいて、第5回 東京農業大学・浪江町復興講座の開催について紹介があり、

参加の依頼があった。また、本学会への共催の依頼があり、審議の結果、了承された。

4. その他

(1) 本学会への寄付の申込書について

溝口 教授より本学会への寄付の申込書が必要であり、作成して、Web 版、紙媒体版を Web にアップしたいとの提案があった。審議の結果、了承された。また、新田が原案を作製して溝口 教授に提案することとなった。

以上

今後の予定

- ・事務局会議（第 22 回） 2020 年 11 月 2 日（月）15 時 00 分～16 時 00 分 Zoom による Web 会議
- ・第 5 回東京農大・浪江町復興講座、本学会共催、2020 年 11 月 7 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分、道の駅なみえ・Zoom
- ・「福島フォーラム」、本学会共催、2020 年 11 月 9 日（月）16 時 30 分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供：尾形 慎 准教授
- ・「福島フォーラム」本学会共催、2020 年 12 月 21 日（月）16 時 30 分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供：二瓶 直登 准教授

「復興農学会」事務局会議（第23回）議事録

文責 横山 正（福島大学）

日時 2020年11月16日（月）15時00分から

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、石井 秀樹（福島大学）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

石井 准教授より討議したい内容として以下の提案がなされた。これに関して討議した。

以下の事前アンケートの集計結果もふまえて

- 1) 復興農学会が目指すものごと
 - a) 復興農学の射程、専門性
 - ・福島での復興支援研究の経験から
 - ・既存の専門農学ではカバーできなかったもの
 - ・災害一般を視野に入れた「復興農学」の役割
 - b) 復興農学がもたらす農学への新しい視座
 - ・研究に対して
 - ・地域貢献に対して
 - ・研究に対して
 - c) 大学が復興農学を推進する上での課題
 - ・人員体制
 - ・予算
 - ・国や自治体、農業者や地域との連携
 - ・民間企業との連携
 - d) 以上を踏まえて復興農学会が果たすべき機能とは
 - ・被災地大学が果たすべき教育研究拠点としての機能

討議に内容として

研究以外の地域との関わりのあり方について、きちんと引き出すべき（横山）

いろいろな人に考え方が聞けるように、復興農学会に期待するもの、入会時に書いて頂いたものを共有する（溝口）

HIDEKI ISHII から全員に: 03:24 PM : 今までやってきたシンポジウムなどと重ならない様に、切り口をもう少し決めて、専門農学ではカバーできない分野、設立趣旨に謳っているような実学的なところは、①ハイテク、②ローテク、両面ある出のは無いか

ハイテクとローテクの対は、面白いテーマである（溝口）

六次化はローテクが多いが、機能性を含めて先端的な所が注目を集めているけど、ローテクすらままならない、部分をどのようにくみ取るか。

大学以外の人にも入って頂けるような配慮をする

溝口 教授から復興農学会に参加した人がどの様に期待するかのメモを参考にしたらという提案がなされた。以下にそれを溝口 教授がまとめられたものを記載した。

<復興農学会参加時のコメント>

Masaru Mizoguchi から全員に: 03:43 PM

<http://fukkou-nougaku.com/wp-content/uploads/2020/11/reason.html>

事務だよりにリンク

復興農学会に入会した理由

1. 様々な方と連携して、復興、活気ある地域づくりに関わりたい
2. 様々な分野の結集が本県農業の再興へ繋がると考えるから
3. 福島復興支援研究活動における連携
4. 福島第一原発事故後に福島県内で農地の放射性Csに関する研究活動を行っているため
5. 福島第一原発事故で被害を受けた福島県農業の復興に寄与したい
6. 福島大学 メンバーとして積極的にかかわりたく存じます。
7. 福島在住経験がありながら、今まで福島の復興のことを知り貢献するための行動に出たことがなく、この機会に関わり始めたいと思ったから。
8. 福島県の復興に期待している。
9. 福島県の農業復興と農産物輸出の更なる促進に寄与したいため。
10. 福島県の農業の復興にお手伝いするため
11. 福島県の農業の復興と振興に貢献するため
12. 福島県で放射性物質の動態に関して研究活動を実施しているため。
13. 福島県での農業復興に貢献できれば
14. 福島の復興を願っているため
15. 福島の復興に貢献したい
16. 福島の復興に関わる仕事をしているため
17. 福島の復興に関わる研究に携わっているため
18. 福島の復興、古里の里山の風景再生に貢献したい。
19. 福島での長期にわたる復興をサポートするため
20. 福島から始まる新たな農学に貢献したいため
21. 福島イノベーション・コースト構想推進事業での現地との関わりをきっかけに、広く自然災害などからの地域再生・復興に関する情報共有や貢献ができればよいと考えた。
22. 復興農学会を応援したい
23. 復興知事業を通じ、ロボット工学の農業への応用に興味を持ったため。
24. 復興知イベントに参加してまたぜひ活動したいと思ったから
25. 復興に少しでも役立ちたいと考えたため
26. 復興に貢献したい
27. 復興に関わる研究者・実践者のネットワークの一員に加わりたいと考えたため
28. 復興に関する研究者の活動が知りたいから。
29. 被災地の復興に役立ちたいから
30. 被災地の復興に役に立ちたいと思います。
31. 被災地の復興に貢献したいから
32. 被災地の農業復興に貢献したい
33. 飯舘村を良くして、それを成功事例として広め、日本の農村を良くしていきたい。
34. 飯舘村への訪問、ワークショップを通じ、知識も行動力もないため村のために何も貢献できないことを痛感させられました。今年の4月から建設コンサルタントに就職するので、仕事をする中で得られた知識を村の復興のために生かしたいと思い入会を希望します。
35. 飯舘村での活動を通して復興とは何かを考えながら、貢献していきたいと思ったから
36. 飯舘村での体験から、関心を持ったため
37. 漠然と復興について考えたことはあっても、真剣に学んだりしたことはなかったため、きっかけを作りたいと思ったから。東大の全学ゼミにおける溝口先生の講義に触発されたから。
38. 農業の力、今こそ必要
39. 農業、林業の復興への情報収集、ネットワーク
40. 農学と復興という言葉に惹かれ、気軽に参加可能とのことだったので、情報と地域との関わりを得る機会となればと思い、入会を希望しました。
41. 東大むら塾で飯舘村での地域おこし活動に関わっているため。

42. 東京大学の「水と土の環境科学」の講義を受講しており、溝口勝先生の講義の中で復興農学会について知りました。この会に入会し、復興農学についての深い知識を得たいと考えて入会を希望します。
43. 土壌科学の観点から福島復興に貢献したいから
44. 地震や台風などいろんな災害によって、ゼロからあるいはマイナスからリスタートとなってしまった方たちがいる状況と、どんな風に向き合って寄り添っていけば良いか、自分にできることを考えたいから。
45. 地域貢献のため
46. 大人の事情
47. 大学で福島県飯舘村におけるセシウム汚染について学び、後に飯舘村での稲刈りツアーに参加させて頂く機会がありました。その際、復興に向け力強く活動されている現地の方々やふくしま再生の会の方々を見て、自分も福島県における農業復興のため少しでも何か力になりたいと思い希望しました。
48. 大学で学んだ知識を社会に役立つ形で還元したい
49. 多分野の専門家・活動家との連携、
50. 卒業研究に関連する為
51. 前回の福島訪問を通じて、より何か貢献できたらと思ったため。
52. 川俣町の農業復興に関心がある
53. 設立趣旨に同意
54. 設立趣意書を読んで震えました。まったくその通りだと、感心しました。私は、福島市で、農業を営んでおります。農学が栄えてこそ農業も栄えることを実現しなくてはならないと、本年四月より、福島大学食農学類の学生となりました。農学会に入会を希望しないわけがありません。それが理由です。
55. 人（と生き物全般）が継続して住める環境を維持したいから
56. 震災復興、営農再開、地域コミュニティの再生に貢献したい
57. 震災以来、福島県二本松市や浜地域の富岡町等で、福島農業復興に関する試験研究を行ってきた。イネに関して、グループで放射性 Cs 吸収抑制型イネの育種母本等を開発したが、福島県等が風評被害を気にして二の足を踏んで、普及する段階まで至らず、今でも残念な思いが強い。これまで農水省関連の予算での研究であったが、復興農学会のようないろんな職種や階層の方々が集まった雑多だが、広範に知恵が集まるような組織ができて、研究予算等はどっかから何とかして、一丸となって地域に貢献できる研究とその成果としての技術を普及する道筋を作れる可能性があると思ったので。
58. 食農学類で上述の分野に関する教育研究を行う上で復興、食農の考えが重要であり、復興農学会と連携したい。
59. 食を通じて、地元の復興の力になりたいため
60. 職業として税金を使った農業研究に従事しており、研究・開発しようとする技術の真のユーザーの意見を聞きながら仕事をしたい。
61. 情報収集
62. 修士博士の研究で福島復興プロジェクトに携わっていました（農水省、地域戦略プロ）。農家さんに寄り添った学術を広げていきたいと思っています。
63. 授業で溝口先生に勧められ、面白そうだったから。
64. 趣旨に賛同
65. 社会貢献、福島復興
66. 実学に裏打ちされた農学の災害復興における役割を応援したいと思います。
67. 自分の専門や勉強している内容が復興にどのように生かされるのか学んで行きたいと思ったから。
68. 自然は人に恵みをもたらす一方で、時に牙をむくこともある。
69. 施設園芸の発展に寄与する
70. 災害復興を推進するには、様々な立場の人々が知恵と力を出し合い、協力する必要があります。研究者技術者も同じだと思います。そのような場がこれまでなかったため、この準備会の設立に賛同いたします。

71. 溝口先生の講義を聞いて興味を持ったため
72. 溝口先生の講義を聴き、大いに興味が湧いた。この機会をきっかけに農業について考え、行動につなげていきたいと思った。
73. 溝口勝先生の講義を大学で受講し、復興農業に興味を持ったため。また実際に現場に出て、農業被害の現状について知りたいと考えたため。 "
74. 現場の産業の復興がかなめと思うから。迷惑施設の受け入れに頼らない地域にしたい。 "
75. 現在、復興関係の研究を行っているから
76. 原子力被災 12 市町村の営農再開を支援する組織として、様々な取組みと連携しながら、自身もつ知見や情報と相互共有して円滑に進めることが重要との考えから。
77. 研究室で福島に連れて行ってもらったため
78. 研究の関係でよき行かせていただいています。学びながら貢献できればと存じます。
79. 熊本地震の被害復興について調べています。東大の溝口先生からご紹介いただきました。
80. 業務の関係
81. 旧原子力災害避難地域出身での地域復興に強い関心と意欲があるため
82. 貴会の設立趣旨に賛同したため
83. 関連する研究に携わっているため
84. 学生時代の経験を通じて、何かしら貢献したいと考えたため。
85. 学会設立の趣旨に賛同したことより
86. 学会の設立趣旨に賛同するため
87. 学会の趣旨に興味を持ったので
88. 会の趣旨に賛同するため
89. 営農再開などの復興について、これからも調べていきたいと思っているので。
90. 一研究者として復興農学に関わっていきたい。また、学生にも伝えていきたい。
91. ポスドクの時に参加していた福島復興プロジェクトで出会った農家さんの姿勢に感銘を受けたため
92. なんとか貢献したいから
93. とくになし
94. ただ研究を行うだけでなく、住民の要望を踏まえた意義のある研究を行いたいから
95. そこに復興農学があるから
96. すでに農業部会にて活動中。
97. すく島県伊達郡川俣町で復興支援を 8 年間行ってきたノウハウが活かされればと考えたため
98. サンダーバード計画の為
99. イノベーションコースとの復興に興味を持ったため
100. 2012 年から今現在まで福島県二本松市で調査研究活動を継続しており、その成果を還元したいから
101. 2011 年度より福島にて研究・教育・地域貢献活動に従事してきました。これを継続してゆきたいです。（なお過去に学会会員登録をしておりますが、シンポジウムに参加すべく、改めて登録を致します。）
102. 「週刊・福島復興知学講義」で紹介を受け興味を持ったから。

●黒瀧 教授から、11 月 30 日は復興農学会の事務局メンバーが主体となる座談会になるが、パート 2 として、積極的に活動している農家の方や行政の方を、各大学や組織から 1 名くらい推薦して、その方々に座談会をしてもらったらいと思うと提案がなされた。

参加者は、この意見に同意した。横山から新田 教授に、上記のような提案がなされ、新田 教授に音頭を取っていただき、パート 2 座談会の開催をご依頼することになった。

●「■資料」イノベーションコースト構想学術研究活動支援事業（「復興知」事業）参画大学の取り組み紹介に関しては、提案様式が承認された。英語のタイトルと英語の Abstract もこれで行くことが了承された。

創刊号の原著論文に関して、杉野 助教が執筆中、溝口 教授が準備中であることが確認された。福島大学で数報準備する旨、お伝えした。

(横山も準備しようと考えています。)

杉野 助教から、1) 英語用紙の文字数、2) 引用文献の書き方、3) 図表の書き方に関して質問があり、お答えした。

●その他

松島 コーディネーターより、鳥獣被害に関するシンポジウムが12月15日に開催されること、そのポスターが2～3日中に配信できることが連絡された。このポスターは事務局メンバーで共有するとともに、復興農学会のHPで公開することが確認された。

●前回の議事要旨に関しましては、変更点等があれば新田 教授へ直接ご連絡いただくことにした。

以上

今後の予定

- ・復興農学会誌創刊記念「座談会」 2020年11月30日(月)15時00分より Zoom 利用
- ・事務局会議(第24回) 2020年12月7日(月)15時00分～16時00分 Zoom 利用
- ・事務局会議(第25回) 2020年12月21日(月)15時00分～16時00分 Zoom 利用
- ・「福島フォーラム」本学会共催、2020年12月21日(月)16時30分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供:二瓶 直登 准教授

「復興農学会」事務局会議（第24回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年12月7日（月）15時00分～15時40分

方法 ZoomによるWeb会議

出席予定者 伊藤 央奈（郡山女子大学）、溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）（敬称略）

議事録

1. 本会議の議事録の修正について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、10月26日（月）に開催された事務局会議の議事録で、復興農学会の英名を間違っただけで記載したため修正したいとの提案があり了承された（「Society of Reconstruction Agriculture (SRA)」に修正）。

2. 本学会会員の名簿整理と会員数の確保について（新田）

新田より、本学会を日本農学会への会員入会、ならびに、日本学術会議への協力学術研究団体としての登録ため、名簿を整理する必要があることが報告された。については、本学会のWebからの入会手続き者に加えて、復興農学会設立記念シンポジウムでの参加者に入会希望者等がいるかを福島大学で確認することとなった。そして、次回の本会議で報告し、会員数等について検討することとなった。

また、新田より、自治体、会社、団体等の入会を勧誘・依頼して欲しい旨の発言があった。

3. 東京農業大学主催事業の本学会の共催について（新田）

新田より、東京農業大学主催事業の本学会共催について、下記のとおり報告と確認があった。

- ・「浪江復興米の販売」、2020年12月19日（土）、13時30分～14時30分、浪江町道の駅
- ・「東京農大・浪江町復興講座⑦」2020年12月19日（土）、15時00分～17時00分、Zoom併用、（仮）イノシシ対策について
- ・「東京農大・浪江町復興講座⑧」2020年12月20日（土）、9時30分～12時00分、Zoom併用、（仮）地域食材を用いたまちおこし（島根県邑南町 寺本シェフの農家レストランの事例紹介等）

4. 郡山女子大学主催事業の本学会の共催について（伊藤）【資料】

伊藤 講師より資料にもとづいて、市民フォーラム（下記）の本学会共催について依頼があった。審議の結果、了承された。

- ・「食と地域連携～葛尾村と食物栄養学科の取り組み～」2021年1月23日（土）13時00分～15時30分、郡山女子大学創学館・Zoom併用

5. 学会誌の編集状況について（横山）

横山 特任教授より学会誌の編集状況について、▼最終的な原稿の締め切りを12月25日とすること、▼査読を事務局会議メンバーに年末年始に依頼することになること、等が報告された。

6. その他

(1) 本学会のイベント・予定等の「グーグルカレンダー」の利用について

溝口 教授より、本学会および事務局会議関係のイベント・予定等を「グーグルカレンダー」に掲載してはどうかとの提案があった。審議の結果、了承され、溝口 教授、杉野 助教が整備し、事務局会議メンバーが利用できるようにすることとなった。

(2) 次々回（第 26 回）の事務局会議について

新田より次々回の本会議の開催日時について提案があった。審議の結果了承された。

2021 年 1 月 8 日（金）15 時 00 分～16 時 00 分、Zoom 利用

以上

今後の予定

- ・東京農業大学主催・本学会共催、2020 年 12 月 19 日（土）、13 時 30 分～14 時 30 分、浪江町道の駅、「浪江復興米の販売」
- ・東京農業大学主催・本学会共催、「東京農大・浪江町復興講座⑦」、2020 年 12 月 19 日（土）、15 時 00 分～17 時 00 分、Zoom 併用、野生鳥獣害対策と A 級グルメでまちおこし（くまもと☆農家ハンター 宮川 氏）
- ・東京農業大学主催・本学会共催、「東京農大・浪江町復興講座⑧」、2020 年 12 月 20 日（土）、9 時 30 分～12 時 00 分、Zoom 併用、野生鳥獣害対策と A 級グルメでまちおこし（島根県邑南町 寺本 氏）
- ・事務局会議（第 25 回） 2020 年 12 月 21 日（月）15 時 00 分～16 時 00 分 Zoom 利用
- ・福島大学主催・本学会共催、「福島フォーラム」、2020 年 12 月 21 日（月）16 時 30 分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供：二瓶 直登 准教授
- ・事務局会議（第 26 回） 2021 年 1 月 8 日（金）15 時 00 分～16 時 00 分 Zoom 利用
- ・郡山女子大学主催・本学会共催、「食と地域連携～葛尾村と食物栄養学科の取り組み～」、2021 年 1 月 23 日（土）13 時 00 分～15 時 30 分、郡山女子大学創学館・Zoom 併用

「復興農学会」事務局会議（第25回） 議事（案）

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年12月21日（月）15時00分～★時★分

方法 ZoomによるWeb会議

出席予定者 伊藤 央奈（郡山女子大学）、溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、菅原 優（同）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、岩城 一郎（日本大学）、中野 和典（同）、内田 修司（福島高専）、青木 英二（同）、川妻 伸二（同）、鈴木 茂和（同）、登尾 浩助（明治大学）、丹野 史典（JST）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）、鈴木 伴承（同）、影山 千尋（同）

欠席等連絡者
（敬称略）

議事（案）

1. 本学会の日本農学会への入会および日本学術会議の「協力学術研究団体」指定申請について（新田）

【資料】

(1) 日本農学会への入会について

- ・入会の申請締め切りは11月末であったが、12月9日に必要書類を提出し受理された。
- ・入会のおもな要件と状況
会員数は150名以上必要であり、確認が必要。
学術誌を毎年1回以上発行する必要があるが、来年1月に第1号が発行されるが、現状でOKとの回答を事務局より得た。
会費納入については事務局よりの連絡待ちであること。

(2) 日本学術会議の「協力学術研究団体」の指定申請について

- ・入会申請は随時可能。
- ・会員数は100名以上、研究者が半数以上必要であるが、日本農学会の要件をクリアすれば問題ない状況と思われる。
- ・学術誌を毎年1回以上、継続的に発行する必要があるが、発行実績が必要。そのため、第1号を来年1月に発行して要件を得ることになる。しかし、第1号を発行し、会則を提出することでその要件を得ることになるかどうかは、事務局より「審査する『科学者委員会』が検討する」との回答。
- ・申請にかかる経費負担や、年会費などはないこと。

2. 本学会会員の名簿整理と会員数の確保について（新田）

(1) 会員数と名簿の整理

会員区分	登録数
正会員	62
学生会員	38
賛助会員（企業・NPO等）	2
シニア会員	11
非会員	142
計	255

登録数には重複あり。整理が必要。

- ・エクセルシートをパスワードをかけてメールで送ります。各大学で確認をお願いします。
名前の重複ないか？
正会員・学生会員で抜けている方はないか？

・今後の予定

- 1月8日（金）の事務局会議で名簿整理の状況を確認。
- 1月18日（月）の事務局会議で名簿を確定。

(2) 入会の勧誘

- ・名簿活用、整理…福島大学
- ・各大学に割り当てる？

3. 学会誌の編集状況について（横山）

4. その他

(1) 東京農工大学研究活動報告会（大川）

「営農再開地域における先進的なオーガニック作物生産技術の開発」、2021年1月9日（土）13時00分～16時00分、Zoom 利用

以上

今後の予定

- ・福島大学主催・本学会共催、「福島フォーラム」、2020年12月21日（月）16時30分より 福島大学食農学類みらいホール・Web 話題提供：二瓶 直登 准教授
- ・事務局会議（第26回） 2021年1月8日（金）15時00分～16時00分 Zoom 利用
- ・東京農工大学研究活動報告会 2021年1月9日（土）13時00分より Zoom 利用
- ・郡山女子大学主催・本学会共催、「食と地域連携～葛尾村と食物栄養学科の取り組み～」、2021年1月23日（土）13時00分～15時30分、郡山女子大学創学館・Zoom 併用

●日本学術会議協力学術研究団体の指定に係る必要な要件及び手続

平成18年11月21日
第16回科学者委員会決定

日本学術会議協力学術研究団体（以下「協力学術研究団体」という。）の指定に当たっては、日本学術会議協力学術研究団体規程（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定。以下「団体規程」という。）により、必要な要件及び手続を下記のとおり定めるものとする。

記

1 「指定」の通称の使用

団体規程における「称号の付与」については、「指定」と通称することとする。

2 協力学術研究団体として必要な要件の細目

(1) 学術研究の向上発達を図ることを主たる目的とするものであること。

次のようなものは対象外とする。

- ① 一定の思想、主義、主張の普及又は宣伝を主たる目的とするもの
- ② 趣味を目的とする同好者の集まりと認められるもの
- ③ 学術の研究が当該団体又は当該業種の事業目的の従たる目的に過ぎないと認められるもの
- ④ 営利を目的とすると認められた団体及びその附属機関
- ⑤ その他、先例等に照らして不相当と認めたもの

[×事例]

× 株式会社は、明らかに営利を目的としたものなので不相当

(2) 研究者（注）の自主的な集まりで研究者が構成員の半数以上であること。

次のようなものは対象外とする。

- ① 国、特殊法人、独立行政法人及び地方公共団体並びにこれらの設置した学校及び附属機関
- ② 学校法人の設置した学校及び附属機関
- ③ ①②の名称を冠したもののうち、実質的に、構成員の資格が特定の大学、学術研究機関その他の団体に所属する者（かつてこれらに所属していたものを含む。）となっているもの
- ④ 団体の研究が、研究者で行われているとは認められないもの
- ⑤ その他、先例等に照らして不相当と認めたもの

[×事例]

× 個別の学術研究団体にあつて学生のみ（又は学生が主体）で構成されているものは、

研究者の集まりとは認められないので不適當

- × 個別の学術研究団体にあつて大学等に所属すると自動的に当該団体の会員となるような団体は、自主的な集まりとは認められないので不適當
- × ○○大学△△学会（○○は大学名）というような名称で、役員も実質的に○○大学に所属するものとなっている学術研究団体は、○○大学と一体とみなされるので不適當

(3) 学術研究団体の役員の半数以上が構成員である研究者であること及び当該研究者が会費を負担することにより、学術研究団体の運営が研究者自身によって行われていると認められるものであること。ただし、会費の負担に関して、学術研究団体の連合体の場合はこの限りではない。

(4) 次の基準を具備する学術に関する機関誌を継続して年1回以上発行（電子発行を含む。）していること。ただし、学術研究団体の連合体の場合は、この限りではない。

① 人文科学、社会科学又は自然科学に関する学術の研究発表及び議論を主たる目的とするもの。次のようなものは対象外とする。

ア 予稿集、講演要旨集、会議用資料など（ただし、これらであっても、当該研究分野の特性に応じて、掲載された内容が学術論文に準じると判断される場合を除く。この場合は、そのことの説明文書を添付すること。）

イ 団体又はその構成員の消息、意見等をその団体内に報告、交換することを主たる目的とするもの

ウ 文献紹介、図書目録等単なる資料集

エ 時事を報道論議することを主たる目的とするもの

② 発行の終期を予定し得ないもの

単行本の体裁、性質を有するものは対象外とする。

③ 学術に関する団体自身が発行するものとしての形態を具備しているもの

発行人が国、特殊法人、独立行政法人、地方公共団体及び学校法人並びにこれらの設置した学校及び附属機関、出版社等であつて、学術研究団体自身の発行するものとしての形態を具備していない次のようなものは対象外とする。

ア 刊行物の表紙の発行人が、△△大学××学部となっている。

イ 刊行物の表紙の発行人が○○学会となつていても、奥付けの部分が△△大学××学部となっているもの

④ 広告の掲載量が全紙面の3分の1を超えないもの

⑤ ①から④を具備する機関誌を原則とするが、次の機関誌については、個別審査の上で適切と認められる場合には、当該団体の機関誌とみなすことができる。

ア 複数の学協会が発行する合同機関誌。ただし、複数の学協会の役割を明示した書類、発行物等を審査し、当該団体の査読や著作権等に関する体制が学術研究団体として適切と認められる場合に限る。

イ 当該団体が編集し出版社等が発行する機関誌。ただし、当該団体の査読や著作権等に関する体制が学術研究団体として適切と認められる場合に限る。

(5) 学術研究団体の連合体の場合は、構成する学術研究団体のうち協力学術研究団体以外の団体について、それぞれが上記(1)から(4)の要件を満たしていること。

3 協力学術研究団体の指定に係る事務手続

(1) 科学者委員会委員長は、必要に応じ関係各部に審査を付託する。

各部では、当該学術協力研究団体の審査をすることが適当である分野別委員会に審査を依頼することができる。

(2) (1)により審査を依頼された分野別委員会では、別紙1に審査結果を記入するものとする。

また、協力学術研究団体に指定することが不適當又は保留とする場合には、その理由を別紙1に別途付記するものとする。

(3) 各部では、(2)の分野別委員会の審査結果を科学者委員会に回答するものとする。

(4) 科学者委員会は、(2)による審議結果の回答を踏まえ、審議する。

(5) 学術研究団体の連合体の指定に係る事務については、原則として、各部に審査を依頼することなく、科学者委員会において対応するものとする。

また、上記2(5)の要件を満たしていることを確認するため、当該学術研究団体の代表者に対し別紙2により確認書の提出を求めるものとする。

(注) 当該規程における「研究者」の具体的範囲は以下のとおりとする。

- ① 大学、高等専門学校、大学共同利用機関等において研究に従事する者
- ② 国立試験研究機関、特殊法人、及び独立行政法人等において研究に従事する者
- ③ 地方公共団体の試験研究機関等において研究に従事する者
- ④ 公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人等において研究に従事する者
- ⑤ 民間企業において研究に従事する者
- ⑥ その他、当該研究分野について、学術論文、学術図書、研究成果による特許等の研究業績を有する者

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

附 則 (平成22年 1月15日第19回科学者委員会決定)

この決定は、決定の日から施行する。

附 則 (平成25年10月25日第33回科学者委員会決定)

この決定は、決定の日から施行する。

附 則 (平成25年11月15日第34回科学者委員会決定)

この決定は、決定の日から施行する。

附 則（平成26年 4月10日第38回科学者委員会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

附 則（平成27年10月20日第16回科学者委員会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

附 則（令和元年6月12日第22回科学者委員会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

附 則（令和2年8月12日第38回科学者委員会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

協力学術研究団体の審査票

部 分野別委員会名

審査員名

申請団体

番号	審査項目	審査結果
1	学術研究の向上発達を図ることを主たる目的としていること (以下のようなものは不適となります。) (1) 一定の思想、主義の普及・宣伝を主たる目的とする。 (2) 趣味を目的とする同好者の集まり (3) 学術の研究が当該団体又は当該業種の事業目的の従たる目的に過ぎないと認められるもの (4) 営利を目的とする団体及びその附属機関	
2	研究者の自主的な集まりで研究者が構成員の半数以上であること (以下のようなものは不適となります。) (1) 国、特殊法人、独立行政法人及び地方公共団体並びにこれらの設置した学校及び附属機関 (2) 学校法人の設置した学校及び附属機関 (3) 上記(1)又は(2)の名称を冠したもののうち、実質的に、構成員の資格が特定の大学、学術研究機関その他の団体に所属する者(かつてこれに所属していた者を含む。)となっているもの (4) 団体の研究が、研究者で行われているとは認められないもの	
3	学術研究団体の役員の半数以上が研究者であること	
4	人文・社会科学、生命科学又は理学・工学に関する学術の研究発表及び議論を主たる目的とする学会誌を発行していること (以下のようなものは不適となります。) (1) 予稿集、講演要旨集、会議用資料等など(ただし、これらであっても、当該研究分野の特性に応じて、掲載された内容が学術論文に準じると判断される場合を除く。この場合は、そのことの説明文書を添付すること。) (2) 団体又はその構成員の消息、意見等をその団体内に報告、交換することを主たる目的とするもの (3) 文献紹介、図書目録等単なる資料集 (4) 時事を報道論議することを主たる目的とするもの	

審査項目に掲げる協力学術研究団体としての必要な要件を満たしている場合には「○」を審査結果欄に記入し、満たしていない場合には「×」を審査結果欄に記入してください。全て「○」の場合、審査結果は「適」となります。また、意見等がある場合は、下記にご記入ください。なお、審査項目の2及び3の審査に当たっては、別添「協力学術研究団体指定要件確認書」を参考にしてください。

総合所見(適・不適・保留のいずれかに○を付けて、意見があれば下記欄に自由に記入して下さい。協力学術研究団体に指定することが不適当又は保留とする場合には、その理由を簡潔に記入して下さい。)

・適
・不適
・保留

連合体を構成する学術研究団体に関する確認書

令和 年 月 日

1 貴連合体を構成する協力学術研究団体のすべてについて、その名称を記入してください。

1		11	
2		12	
3		13	
4		14	
5		15	
6		16	
7		17	
8		18	
9		19	
10		20	

2 貴連合体を構成する協力学術研究団体以外の各学術研究団体について、以下の項目についてそれぞれ、個人会員である構成員の数を記入するとともに、他の各項目につき、その条件を満たしていることを確認の上、該当する箇所に「○」を記入してください。
また、各学術研究団体の会則、役員名簿(男女の別及び所属情報を含む)、設立趣意書及び機関誌を添付してください。

番号	学術研究団体名	構成員の数(人)	学術研究の向上を目的とし、学術研究の発展を図ること(注1)	(注2)の半数以上の研究者が構成メンバーであること	役員であることが研究	運営は研究者自身によること	学術に関する機関誌を発行していること	備考
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								

(注1) 次のようなものは対象外とする。

- ① 一定の思想、主義、主張の普及又は宣伝を主たる目的とするもの
- ② 趣味を目的とする同好者の集まりと認められるもの
- ③ 学術の研究が当該団体又は当該業種の事業目的の従たる目的に過ぎないと認められるもの
- ④ 営利を目的とする認められた団体及びその附属機関

(注2) 次のようなものは対象外とする。

- ① 国、特殊法人、独立行政法人及び地方公共団体並びにこれらの設置した学校及び附属機関
- ② 学校法人の設置した学校及び附属機関
- ③ ①②の名称を冠したもののうち、実質的に、構成員の資格が特定の大学、学術研究機関その他の団体に所属する者(かつてこれらに所属していたものを含む。)となっているもの
- ④ 団体の研究が、研究者で行われているとは認められないもの

※研究者の具体的範囲は以下のとおりとする。

- ① 大学、高等専門学校、大学共同利用機関等において研究に従事する者
- ② 国立試験研究機関、特殊法人及び独立行政法人等において研究に従事する者
- ③ 地方公共団体の試験研究機関等において研究に従事する者
- ④ 公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人等において研究に従事する者
- ⑤ 民間企業において研究に従事する者
- ⑥ その他、当該研究分野について、学術論文、学術図書、研究成果による特許等の研究業績を有する者

営農再開地域における 先進的なオーガニック作物生産技術の開発 東京農工大学農学部 令和2年度研究活動報告会

日時：令和3年1月9日（土）13時～16時
富岡町研究拠点と結び、Zoomオンライン開催
参加費無料（事前申し込み必要）

* 以下のFormリンク先、あるいはQRコードより、
1月6日（水）までにお申込みください。

後日、Zoomのリンク先をメールにてご連絡いたします。

<https://forms.gle/ZV3rm2DmZNsuzwy6A>



本事業では、福島県浜通りの営農再開地域にある富岡町と連携し、東京農工大学が有する「復興知」を活用し、福島県浜通りの営農再開において、食用米、酒米品種、耕畜連携が期待できる飼料イネ品種などの科学的な知を活用し先進的な有機、特別栽培によるオーガニック作物生産技術を開発するため、2018年7月より富岡町の拠点を中心に研究活動を行なっています。食用米、酒米品種、耕畜連携が期待できる飼料イネ品種などの科学的な知を活用しICTなどを取り入れたスマート有機農業の推進による先進的なオーガニック作物生産技術、鳥獣害被害対策技術を開発し、農業復興、農業振興を支援し、農業収入の安定化と所得の拡大、技術開発・普及等人材育成を目的としています。

富岡町において、本年度の研究活動報告会（オンライン開催）を企画いたしました。お誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願いいたします。



「復興農学会」事務局会議（第26回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2021年1月8日（金）15時00分～15時55分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、菅原 優（同）、大川 泰一郎（東京農工大学）、内田 修司（福島高専）、新田 洋司（福島大学）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 本学会会員の名簿整理と会員数の確保について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて会員の名簿および会員数等について説明があった。また、日本学術会議の「強力学術研究団体」への指定申請について、「会員数が100名以上、研究者が半数以上」の要件があるが、これらはクリアできる見込みとの報告があった。

整理した名簿を新田にまだ提出していない各大学等にあつては、非会員に入会を勧誘した上、整理した名簿を、1月15日（金）までに新田に提出することが確認された。そして、1月18日（月）の本会議で、最終的に名簿を一時確定することとなった。

・会員区分別

会員区分	名簿記載者	研究者・非研究者 (新田の判断等による)	
		研究者	非研究者
正会員	65	39	8
学生会員	37	27	0
シニア会員	10	9	1
非会員	139	82	57
賛助会員・その他	3	0	3
計	254	157	97

・大学等のみ

大学等	計	会員・非会員		研究者・非研究者 (新田の判断等による)	
		会員等	非会員	研究者	非研究者
茨城大学	2	2	0	2	0
岩手大学	1	0	1	1	0
宇都宮大学	2	2	0	2	0
京都大学	1	1	0	1	0
近畿大学	1	1	0	1	0
郡山女子大学	2	2	0	2	0
佐賀大学	5	5	0	5	0
専修大学	1	1	0	1	0
筑波大学	1	1	0	1	0
東海大学	1	1	0	1	0
東京大学	27	21	6	27	0

東京農業大学	6	5	1	6	0
東京農工大学	14	3	11	14	0
東北大学	19	2	17	19	0
金沢学院大学	1	1	0	1	0
新潟大学	4	1	3	4	0
日本大学	4	2	2	4	0
東日本国際大学	1	0	1	1	0
弘前大学	2	1	1	2	0
福島工業高等専門学校	9	9	0	9	0
福島大学	36	15	21	36	0
北海道大学	2	2	0	2	0
三重大学	8	8	0	8	0
宮城大学	2	2	0	2	0
明治大学	5	4	1	5	0
その他	10	0	10	10	0
合計	167	92	75	167	0

2. 学会誌の編集状況について（横山）

横山 特任教授より、学会誌の編集状況について下記のように報告された。

▼原著論文：現在、審査中。1月8日に査読結果が戻り、その後、著者に修正を依頼する。

①JRAS-2020-P1、②JRAS-2020-P2

▼現場からの報告：現在、審査中。

①JRAS-2020-RFF1

▼巻頭言

生源寺 会長から受領済み。

▼その他の原稿（原稿あり）

①復興農学会設立記念シンポ抄録

②復興農学会会則、会誌編集委員会規定、会誌投稿規定、会誌原稿作成要領、会誌原稿例

なお、「書評」（A4判、半ページ程度）を掲載することとなり、審議の結果、下記の2原稿を1月22日（金）までに準備することとなった。

①CAMPBELL, Colin, LICHTBLAU Quentin and MIZOGUCHI Masaru 「Made in Fukushima」：溝口 教授が原稿をどなたかに依頼。

②田尾陽一著「飯舘村からの挑戦」：杉野 助教が執筆。

また、原稿執筆を依頼している川俣町長、インタビュー記事の掲載を予定している飯舘村長については、担当者に原稿等の準備状況を確認することとなった。なお、場合によっては浪江町長に原稿の準備を依頼することがあることが確認された。

新田より、学会誌第1号については、福島大学の「復興知事業」予算を使って、冊子体も刊行する可能性があることが報告された。

3. その他

(1) 本学会の今後のあり方等について（新田）

新田より、本学会の各分野の今後のあり方等について話題提供があり、若干審議した。具体的には、本学会内には種々の専門分野があるが、今年度内にあっては各専門グループ別に分かれた活動はとくにしないうこと、しかし、各専門グループに分かれた活動の可能性も考えながら全体的な活動を継続すること等が

確認された。

以上

今後の予定

- ・東京農工大学研究活動報告会 「営農再開地域における先進的なオーガニック作物生産技術の開発」、2021年1月9日（土）13時00分より Zoom 利用
- ・事務局会議（第27回） 2021年1月18日（月）15時00分～16時00分 Zoom 利用
- ・会誌第1号の最終原稿集約 2021年1月22日（金）
- ・郡山女子大学主催・本学会共催、「食と地域連携～葛尾村と食物栄養学科の取り組み～」、2021年1月23日（土）13時00分～15時30分、郡山女子大学創学館・Zoom 併用

「復興農学会」事務局会議（第27回）議事録（案）

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2021年1月18日（月）15時00分～16時05分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、小倉 振一郎（東北大学）、内田 修司（福島高専）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録（案）

1. 本学会会員の名簿整理と会員数の確保について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて会員の名簿および会員数等について説明があった。また、日本学術会議の「協力学術研究団体」への指定申請要件（会員数が100名以上、研究者が半数以上）は満たせるとの報告があった。

各大学等にあつては、名簿に新規会員登録などの加筆等がある場合は、1月30日（土）までに新田に連絡することとなった。また、名簿が確定し、学会誌を刊行後、日本学術会議に「協力学術研究団体」指定申請をすることが確認された。

なお、現在、新田が名簿編集をしているエクセルファイルは1月30日（土）までのデータを反映後、杉野 助教がWebのクラウドデータに反映させて名簿データを一本化し進めることとなった。また、会員にあつては、名簿データの管理は各自が行うことを原則とすることが確認された。

・会員区分別

区分		名簿記載者	研究者・非研究者 (新田の判断等による)	
			研究者	非研究者
会員	正会員	116	102	14
	学生会員	44	44	0
	シニア会員	9	8	1
	賛助会員・その他	3	0	3
	計	172	154	18
設立記念シンポに参加登録し、会員申請していない者		114	61	53

・大学等のみ

大学等	会員	同左研究者	設立記念シンポに参加登録し、 会員申請していない者
茨城大学	2	2	0
岩手大学	0	1	1
宇都宮大学	2	2	0
京都大学	1	1	0
近畿大学	1	1	0
郡山女子大学	2	2	0
佐賀大学	5	5	0
専修大学	1	1	0
筑波大学	1	1	0
東海大学	1	1	0
東京大学	21	21	6
東京農業大学	6	6	1
東京農工大学	32	32	3

東北大学	2	2	17
金沢学院大学	1	1	0
新潟大学	1	4	3
日本大学	2	2	2
東日本国際大学	0	0	1
弘前大学	1	1	1
福島工業高等専門学校	6	6	9
福島大学	40	40	7
北海道大学	2	2	0
三重大学	8	8	0
宮城大学	2	2	0
明治大学	4	4	1
その他	0	0	0
合計	144	148	52

2. 学会誌の編集状況について（横山）

横山 特任教授より、学会誌の編集状況について下記のように報告された。

▼原著論文：現在、審査中。①JRAS-2020-P1、②JRAS-2020-P2

▼総説：1報を受け付け。査読に入るところ。

▼現場からの報告：現在、審査中。①JRAS-2020-RFF1

▼巻頭言：生源寺 会長から受領済み。

▼書評：2編の原稿を待っている。1月22日締め切り。

▼飯舘村：原稿未着。1月22日締め切り。

▼その他の原稿（原稿あり）

①復興農学会設立記念シンポ抄録

②復興農学会会則、会誌編集委員会規定、会誌投稿規定、会誌原稿作成要領、会誌原稿例

なお、学会誌に広告を掲載してはどうかとの提案があった。審議の結果、今号より掲載することとし、本会議委員・各大学等が企業等に至急依頼することとなった。なお、今号では原則として企業等が作成した完全原稿（PDF）を掲載することとし、A4版1ページで3万円、1/2ページで1.5万円（いずれも税込み）とすることが了承された。また、福島大学が企業等への広告掲載依頼文書を作成することとなった。

3. その他

(1) 本学会 Web コンテンツの更新について

本学会の Web コンテンツについて、各大学が主催し本学会が共催する事業・取り組みや、事務局会議の議事録などの情報が更新・アップされていない等の指摘があった。新田より詫びの発言があり、福島大学で調整し進めることが確認された。

(2) 本学会の最近の状況や今後の進め方について

本学会ではこれまで、研究例会やフォーラムなどを共催などで実施してきたが、最近、継続されていないとの指摘があった。また、来年度以降の本学会の進め方等について検討して明らかにする必要があるとの意見があった。本件についても福島大学での検討や作業が停滞していることについて新田より詫びの発言があり、一部を福島大学で調整して進めることが確認された。

(3) 「国際教育研究拠点」にかかる情報提供について

松島 コーディネーターより「国際教育研究拠点」にかかる情報と、溝口 教授より同拠点にかかる復興庁との情報交換があったことについて情報提供があった。

以上

今後の予定

- ・会誌第1号の最終原稿集約 2021年1月22日(金)
- ・郡山女子大学主催・本学会共催、「食と地域連携～葛尾村と食物栄養学科の取り組み～」、2021年1月23日(土)13時00分～15時30分、郡山女子大学創学館・Zoom併用
- ・事務局会議(第28回) 2021年2月1日(月)15時00分～16時00分 Zoom利用

「復興農学会」事務局会議（第28回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2021年2月1日（月）15時00分～16時05分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、菅原 優（同）、大川 泰一郎（東京農工大学）、内田 修司（福島高専）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）

欠席等連絡者
（敬称略）

議事録

1. 学会誌の編集・発行について（横山、新田）

(1) 学会誌第1号の刊行について

新田より学会誌第1号が刊行されたことが報告された。また、編集・刊行に尽力された横山 特任教授に事務局会議メンバーより謝意が表された。

なお、J-STAGE へのアップについては、石井 准教授が対応することが確認された。

(2) 市町村の首長のインタビュー記事の掲載について

新田より、第1号では福島大学の企画で飯舘村長インタビュー記事を掲載する予定であったが、できなかったこと、また、それによって記事を準備していただいていた先生方にご迷惑をおかけしたことについて報告とお詫びがあった。

また、新田より、第2号では市町村の首長のインタビュー記事を、福島大学の事業の一部を依頼している本間 公子 氏（ライター、連絡先等は下記）に担当してもらって編集・掲載したいと考えており、本年度中に取材・編集・執筆を進めたいとの提案があった。

審議の結果、以下の市町村の首長にインタビュー（対面またはリモート）をすること、インタビューの実施にあたっては担当者が首長と本間 氏に連絡して準備して進めることが了承された。また、首長へのインタビュー依頼の公文書を横山 特任教授が作成することとなった。

- ・相馬市 洪谷 教授
- ・飯舘村長 溝口 教授（石井 准教授・福島大学）
- ・浪江町長 黒瀧 教授
- ・富岡町長 大川 教授
- ・広野町長 内田 教授
- ・川内村長 石井 准教授・福島大学
- ・葛尾村長 小倉 教授

本間 公子 氏の連絡先（メールの「署名」から）

ライター 本間公子

〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月 2-6-13-404

TEL : 090-4139-2703 fax : 044-422-8972

egg822@u01.gate01.com

(3) 学会誌の広告について

新田より、第1号で掲載予定で準備が進められていた広告について、福島大学の事業予算との切り分け

がむずかしい等の理由により掲載できなかったこと、また、それによって募集・働きかけや原稿を準備していただいていた企業等と先生方にご迷惑をおかけしたことについて報告とお詫びがあった。

広告の掲載について議論した結果、第2号への掲載を待たずに学会ホームページに載せることや、掲載するバナーから当該企業等にリンクを張る方法等について提案があった。本件については、引き続き検討することとなった。

(4) 学会誌論文の抜き出しについて

刊行された第1号は、おもて表紙からうら表紙まで論文等を含めて1本のPDFファイルとなっており、論文等だけの抜き出しができない形態になっているとの意見があった。審議の結果、個々の論文等を抜き出しできる形態で刊行する方向で検討することとなった。

2. 日本学術会議「協力学術研究団体」指定申請について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて会員名簿の整理結果と会員数について報告があった（下表）。また、新田が編集した名簿エクセルファイルと、Web上の名簿を突き合わせる作業を杉野 助教が行い、その後、会員数等を確定したのち、日本学術会議に指定申請を提出することが確認された。

日本学術会議への「申込書」については、「6 活動状況」の「会合」に「研究例会」を記載することが、「関係する学問分野」では、「人文・社会科学」に「地域研究委員会」を、「生命科学」に「農学委員会」を、「理学・工学」に「土木工学・建築学」をそれぞれ記載することが了承された。

新田より、おおむね来週中ぐらいに申請書類を日本学術会議に送付したいとの発言があり、了承された。

・会員区分別

区分		名簿記載者	研究者・非研究者 (新田の判断等による)	
			研究者	非研究者
会員	正会員	117	103	14
	学生会員	44	44	0
	シニア会員	9	8	1
	賛助会員・その他	3	0	3
	計	172	154	18
設立記念シンポに参加登録し、 会員申請していない者		113	60	53

・大学等のみ

大学等	会員	同左研究者	設立記念シンポに参加登録し、 会員申請していない者
茨城大学	2	2	0
岩手大学	0	1	1
宇都宮大学	2	2	0
京都大学	1	1	0
近畿大学	1	1	0
郡山女子大学	2	2	0
佐賀大学	5	5	0
専修大学	1	1	0
筑波大学	1	1	0
東海大学	1	1	0
東京大学	21	21	6

東京農業大学	6	6	1
東京農工大学	32	32	3
東北大学	2	2	17
金沢学院大学	1	1	0
新潟大学	1	4	3
日本大学	2	2	2
東日本国際大学	0	0	1
弘前大学	1	1	1
福島工業高等専門学校	6	6	9
福島大学	41	41	6
北海道大学	2	2	0
三重大学	8	8	0
宮城大学	2	2	0
明治大学	4	4	1
その他	0	0	0
合計	142	146	51

【参考】

日本学術会議の「協力学術研究団体」の指定申請について

- ・入会申請は随時可能。
- ・会員数は100名以上、研究者が半数以上必要。
- ・学術誌を毎年1回以上、継続的に発行する必要がある。
- ・申請にかかる経費負担や、年会費などはないこと。

3. その他

(1) 各大学等事業の「概要」と「キーワード」の送付依頼について

横山 特任教授より、各大学等の「復興知」事業の成果をデータベースとして復興農学会ホームページに蓄積し公開したいため、各事業の「概要」と「キーワード」を提出するよう再度依頼があった。については、後刻、横山 特任教授よりフォーマット等が再度、送付されるので、それに対応して欲しいとの依頼があった。

また、黒瀧 教授より、「復興知」事業に加えて各大学等の関連事業やプロジェクトもホームページにアップしてはどうかとの提案があり、審議の結果了承された。については、各大学等から該当プロジェクト等に「概要」と「キーワード」の提出を依頼するとともに、ホームページに公示するなどして進めることとなった。

以上

今後の予定

- ・事務局会議（第29回） 2021年2月15日（月）15時00分～16時00分 Zoom 利用
- ・福島フォーラム 2021年3月1日（月）16時30分～ Zoom 利用

「復興農学会」事務局会議（第29回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2021年2月15日（月）15時00分～15時55分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、小倉 振一郎（東北大学）、
内田 修司（福島高専）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、横山 正（同）、松島 武司（福
島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 学会誌関係について

(1) 市町村の首長のインタビュー記事の掲載について（新田、横山）

新田、横山 特任教授より市町村の首長のインタビュー記事掲載のためのインタビュー実施方法等について説明があった。審議の結果、下記のように担当者を確認し、実施することとなった。また、インタビューの実施はおおむね3月中旬ごろまでとすること、首長への学会長よりの「依頼文書」を横山 特任教授が作成すること、インタビュー項目等についても「依頼文書」に添付すること、記事をライターがまとめたのちに担当者が記事内容を確認すること、等が確認され了承された。

- ・相馬市 渋谷 教授
- ・飯館村長 溝口 教授（石井 准教授・福島大学）
- ・浪江町長 黒瀧 教授
- ・富岡町長 大川 教授
- ・広野町長 内田 教授
- ・川内村長 石井 准教授・福島大学
- ・葛尾村長 小倉 教授

【本間 公子 氏の連絡先（メールの「署名」から）】

ライター 本間公子

〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月 2-6-13-404

TEL : 090-4139-2703 fax : 044-422-8972

egg822@u01.gate01.com

(2) 学会誌の広告について（新田、横山）

新田、横山 特任教授より広告について、第2号への掲載を待たずに学会ホームページに掲載することや、掲載するバナーから当該企業等にリンクを張る方法等を検討中であることが報告された。

(3) 学会誌論文の抜き出しについて（新田、横山）

新田より、1月末に刊行された学会誌は、おもて表紙からうら表紙まで1本の電子ファイルになっており、個々の論文等を抜き出しができる形態が望ましいとの意見があることが報告された。このことについて、横山 特任教授より個々の論文等の抜き出しができる形態に変更すること、また、溝口 教授よりその準備を一部はじめたことが報告された。今後近いうちに、横山 特任教授、溝口 教授が情報交換しながら論文等の抜き出し可能な形態に変更することが確認された。

2. 日本学術会議「協力学術研究団体」指定申請について（新田）

新田より、日本学術会議「協力学術研究団体」の指定申請について、書類の取りまとめの最終段階であり、近日中に申請（郵送のみ）する見通しであることが報告された。

3. 各大学等事業、プロジェクト等の「概要」と「キーワード」の Web 掲載等について（横山）

横山 特任教授より、各大学等の事業やプログラム等の「概要」・「キーワード」の Web 掲載を暫定的に開始していることが報告され、気づいた点があれば同特任教授に連絡することとなった。また、関連事業・プロジェクトを広く Web に掲載するため、Web で広報することや、事務局会議メンバーが広く関係者に呼びかけることとなった。

4. その他

(1) 福島大学企画のご提案とお願い（新田、石井、横山）

新田より、福島大学「復興知」事業の企画として、「復興知ワークショップ」を開催予定であることが報告された。また、各大学等にあつては、「復興知」事業の成果等について発表していただきたいとの提案があった。

意見交換の結果、学生の卒論・修論等の発表でもよいが学生の発表にこだわらなくてよい、各大学等で 20 分の時間でまとめる、こととなり、下記のように実施の概要を仮に決定した。詳細については、後日、福島大学より提案・連絡することとなった。

タイトル：復興知ワークショップー復興農学の可能性をさぐるー

日時：2021 年 3 月 18 日（木）13 時 00 分から（2.5～3 時間程度）

場所・方法：主会場（市町村庁舎等）、Web 利用

内容（案）

- ・事務局会議メンバーの大学等の成果を発表していただく。学生・大学院生の卒論、修論、事業報告などでもよい。発表は 10～12 分程度とし、その後、教員が総括や補足するコメントをしてまとめる。全体で 20 分程度。当日、参加できない場合は、事前にパワーポイントなどで収録する。
- ・全大学等の発表終了後に総合討論を行う。情報共有と知見・技術等の相互利用をめざす。その際、現在、Web で整備中の各大学等の「復興知」事業・プロジェクト等の紹介と相互利用を促進する。なお、総合討論に当日、参加できない大学等に質問などがあつた場合は、後日、回答し状況共有する。
- ・自治体、農業関連団体、農業従事者等にも参加をよびかけ、参加してもらう。

(2) 復興庁との「国際教育研究拠点」設置にかかる意見交換会について（溝口）

溝口 教授より、2 月 10 日（水）に復興庁との間で「国際教育研究拠点」設置にかかる意見交換会が Web で開催され、事務局会議メンバーから溝口 教授、新田が、ほかに東京大学、明治大学、福島大学参加者があり意見交換が行われたことが報告された。

(3) 東京農業大学「復興知」事業（相馬プロジェクト（渋谷 教授））関係書籍の刊行について（黒瀧）

黒瀧 教授より、プロジェクト開始から 10 年を迎える東京農業大学「復興知」事業（相馬プロジェクト）では、今般、書籍を刊行することになったことが報告された。

同書籍については、学会誌の「書評」に記事を掲載することとなった。

以上

今後の予定

- ・事務局会議（第 30 回） 2021 年 3 月 1 日（月）15 時 00 分～16 時 00 分 Zoom 利用
- ・福島フォーラム 2021 年 3 月 1 日（月）16 時 30 分～ Zoom 利用

「復興農学会」事務局会議（第31回）議事録

文責 石井 秀樹（福島大学）

日時 2021年3月15日（月）15時00分～

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、内田 修司（福島高専）、石井 秀樹（福島大学）、横山 正（同）、松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 首長へのヒアリングについて

横山（福島大学）：震災後の川内村の対応について遠藤村長より幅広いご意見を伺えたことのご報告があった。

内田（福島高専）：個人的にお話を聞けば色々伺えたのですが、双葉八町村として足並みを揃えた発言をしなければという配慮もあり、一般的な内容にとどまった感もある。一方、復興農学会に対する期待、ご意見を伺うことができた。

小倉（東北大学）：復興農学会としての想定質問もあったが、既に多くのヒアリングで答えられている事柄も多く、篠木村長からはもう少し踏み込んだ震災直後の忘れられない思い出・ご経験などをお聞かせいただいた。貴重なヒアリングなので、是非多くの人に聞いていただきたい。

2. 今後の運営について

復興農学会の事務局会議のあり方について、各部会の取り組みを本格化させ、全体としての事務局会議は月1回のペースとすることの基本方針が確認された。

次回の運営については、各大学の状況をお聞きするメールを事務局から出す事とし、メールベースでの調整をすることが確認された。

3. 松島さんのご退任に際して

参加者からの御礼のメッセージが寄せられ、松島氏からは復興農学会への期待、農家に寄り添った研究・人材育成のあり方、復興農学会の運営に対してのメッセージを賜った。

4. その他

なし

以上

次回（第32回） 開催日時等未定。後日調整。